宮城県文化財調査報告書第 233 集

平成 24 年度

東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告Ⅰ

平成 26 年 3 月

宮 城 県 教 育 委 員 会

平成 24 年度

東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告Ⅰ

序　　文

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、宮城県内にも甚大な被害をもたらしました。家屋の全壊は約85,000棟、半壊は約152,000棟にのぼり、震災から3年を経た現在でも、80,000名を越える被災者が仮設住宅での生活を余儀なくされています。こうした厳しい状況の下で、防災集団移転など復興に向けた事業の推進が急務となっており、これに伴う埋蔵文化財の発掘調査件数も大幅に増加しています。

宮城県教育委員会では、震災後、文化庁を通じて全国都道府県教育委員会に埋蔵文化財専門職員の派遣を要請しました。その結果、平成24年4月1日付けで9名の自治法派遣職員が宮城県に派遣され、さらに下半期の10月1日からは新たに8名が加わり、被災地における埋蔵文化財調査の円滑な実施のための体制が整えられ円滑な調査が実施されました。

本書は、平成24年度に宮城県が復興交付金を受けて実施した、復興関連遺跡調査成果を集成した報告書です。収録した埋蔵文化財調査の成果は、全国各地からの派遣職員の協力を得て蓄積されたものであり、先人たちが苦難を克服し築き上げてきた文化を再認識するための貴重な足がかりとなるものです。

本書が、今後、災害からの復興事業推進と埋蔵文化財調査の両立を図る資料として活用されるとともに、繰り返し津波被害を受けてきた三陸沿岸地域の精神的復興に貢献できるものとなれば幸いです。

最後になりますが、自治法派遣職員をはじめとして厳冬期の調査に取り組んでいただいた皆様、円滑な埋蔵文化財調査に取り組んでいただいた関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成26年3月

宮城県教育委員会

教育長　髙橋　仁

例　　言

1．本書は、宮城県教育委員会が平成24年度の復興交付金を受けて実施した東日本大震災復興事業関連遺跡の発掘調査（試掘）報告書である。

2．発掘調査は、宮城県教育委員会が主体となり、宮城県教育庁文化財保護課が担当した。

3．震災復興事業に伴う発掘調査および報告書作成にあたっては、地方自治法に基づく全国自治体からの派遣職員および東北歴史博物館・宮城県多賀城跡調査研究所職員の支援・協力を得た。また、関係各部局や地元教育委員会から多大な協力をいただいた。

4．本書の遺跡位置図は、国土交通省国土地理院発行の地形図を複製して使用した。

5．本書で使用した測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第Ｘ系による。なお、方位Ｎは座標北を表している。

6．土色の記述にあたっては「新版　標準土色帖　1996年版」（小山・竹原1996）を使用した。

7．本書の執筆は、調査を担当した課職員、東北歴史博物館・宮城県多賀城跡調査研究所職員、自治法派遣職員の協議を経て以下の分担で行い、編集は佐久間光平が行った。

Ⅰ：佐久間 光平　Ⅱ：古川 一明　Ⅲ－1：高橋 栄一

Ⅲ－２　松崎館跡　若宮遺跡　中沢遺跡　羽黒下遺跡

野々浜遺跡・野々浜Ｂ遺跡：※遠藤 武・三好 秀樹

津の宮遺跡：大友 邦彦

青島館跡・月浜古墳群　韮塚貝塚：※伴瀬 宗一

立浜貝塚：※大橋 雅也

内山遺跡：古田 和誠

朴島宅地遺跡　桂島貝塚：※小淵 忠司　　※自治法派遣職員

8．発掘調査の記録や出土品は宮城県教育委員会が保管している。

目　　次

序　　文
例　　言
目　　次

Ⅰ．はじめに……1

Ⅱ．震災復興事業関連の発掘調査について……1

Ⅲ．平成 24 年度　震災復興事業関連遺跡の発掘調査……6
　１．調査の概要……6
　２．各遺跡の発掘調査（試掘）……9
　　南三陸町　１）松崎館跡……9
　　２）若宮遺跡……11
　　３）津の宮遺跡……13
　　石巻市　４）青島館跡・月浜古墳群……15
　　５）立浜貝塚……17
　　６）韮塚貝塚……21
　　７）中沢遺跡……25
　　８）羽黒下遺跡……29
　　女川町　９）野々浜遺跡・野々浜Ｂ遺跡……33
　　10）内山遺跡……35
　　塩竈市　11）朴島宅地遺跡……37
　　12）桂島貝塚……43

報告書抄録

Ⅰ．はじめに

東日本大震災の復旧・復興事業の円滑な推進と埋蔵文化財保護の両立を図るため、文化庁によって埋蔵文化財発掘調査の取り組みにおける基本方針、すなわち、発掘調査の弾力化、調査体制の強化、調査費用の確保等の骨子が示されたことから、この方針に沿って震災復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に早急に対応することとなった。

本格化する復興調査に迅速かつ的確に対処するため、文化庁、被災３県１市（宮城県・岩手県・福島県・仙台市）および復興庁各県復興局、震災復興関係部局は、「東日本大震災に伴う埋蔵文化財保護に関する会議」（文化庁主催：平成 26 年度までに計 19 回）において協議を重ね、復興調査に係る情報共有を図るとともに重要な課題等を整理・検討し、適切な復興調査を進めることに努めた。また、宮城県内においても、各市町村教育委員会の埋蔵文化財担当等を対象とした連絡調整会議を開催し、被災市町との連携強化を図った。

各種震災復興事業に係る発掘調査のうち、復興道路建設（三陸沿岸道路・常磐自動車道等）や鉄道移設（ＪＲ常磐線）等の大規模事業に伴う発掘調査は県が主体となって実施することとし、沿岸市町の復興整備計画に基づく防災集団移転促進事業や土地区区画整理事業等については、試掘調査を県、確認・本発掘調査を市町が主体となって行うこととした。また、沿岸市町の復興調査の実施にあたっては、各市町の専門職員の配置等を勘案し、適宜、県教育委員会が各市町に職員を派遣するなどして支援・協力をし、個人住宅や企業移転等に伴う調査は、市町主体の調査として行い、県は随時協力することとした。

震災復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、国の復興交付金事業の基幹事業に位置づけられ、復興調査費用は国の復興交付金で措置されることになったことから、宮城県では、分布調査と試掘調査にかかる費用は県、確認調査と本発掘調査にかかる費用は各市町村が交付金を受け、これらの復興調査に対応することとした。第１回目の申請では、宮城県と 17 市町がそれぞれ申請し、計 567,304 千円が交付決定（平成 24 年３月）され、宮城県は 50,102 千円の交付を受けた。

本書は、この復興交付金をもとに、復興事業計画に先立ち、宮城県教育委員会が平成 24 年度に実施した 12 事業 14 遺跡の試掘調査の結果を取りまとめたものである。調査は宮城県教育委員会が主体となり、県文化財保護課が担当して実施した。これらの調査及び報告書作成は、全国地方自治体からの自治法派遣による職員の支援・協力のもとに行われている。

Ⅱ．震災復興事業関連の発掘調査について

東日本大震災後、宮城県内における埋蔵文化財の発掘調査件数はかなり増加した（図１参照）。その実数を調査施行件数（文化財保護法第 99 条に基づく通知）で比較すると（「宮城教育年報」）、震災前の平成 21 年度は 277 件、平成 22 年度は 313 件であったものが、震災後の平成 23 年度は 340 件、平成 24 年度は 386 件と増加を示している。増加した調査の大半は、津波被害を受けた沿岸市町の復興事業に係わるもので、いずれも迅速な調査の遂行が求められたものである。

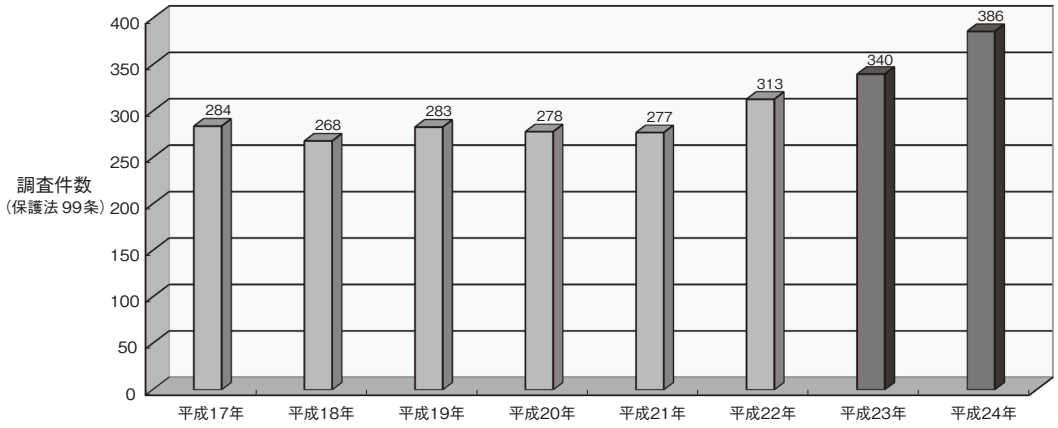


図1　宮城県内の埋蔵文化財調査施行件数の推移

（1）調査体制の強化

宮城県教育委員会は、津波被害により同様の事態に直面する、岩手・福島２県の教育委員会とともに、平成23年９月、文化庁を通じて全国都道府県教育委員会に埋蔵文化財専門職員の派遣要請をおこなった。この要請に対し、全国都道府県及び政令指定都市から20名（岩手県10名、宮城県９名、福島県１名）の職員派遣が決定し、平成24年４月１日付けで着任した、さらに下半期の平成24年10月１日からは、新たに12名（宮城県８名、福島県４名）の派遣職員（宮城県については下表参照）が加わり被災３県の発掘調査体制強化が図られた。また、宮城県では、復興事業を支援するために、各種専門職員を２年の任期付で採用し、平成25年１月以降、沿岸市町に派遣することとした。埋蔵文化財専門職員についても、気仙沼市に２名、東松島市に１名、名取市に１名が派遣されている。また、総務省を通じ、平成24年10月から南三陸町に長野県原村から１名、平成25年１月から気仙沼市に鹿児島県から１名の埋蔵文化財専門職員が派遣され、沿岸市町の調査体制も強化されている。

なお、県文化財保護課では、県の機関である東北歴史博物館及び多賀城跡調査研究所から３名の専門職員の調査協力を得た。

◎平成24年度　震災復興事業関連発掘調査などに係る自治法派遣職員一覧（宮城県）

県市名	氏名	期間	県市名	氏名	期間	県市名	氏名	期間
山形県	阿部明彦	H24.4～	岐阜県	小淵忠司	H24.4～	佐賀県	武谷和彦	H24.10～H25.3
新潟県	高橋保雄	H24.4～H25.3	兵庫県	上田健太郎	H24.10～H25.3	宮崎県	松本茂	H24.10～H25.3
埼玉県	末木啓介	H24.4～H25.3	岡山県	大橋雅也	H24.4～H25.3	京都市	家原圭太	H24.10～H25.3
	伴瀬宗一	H24.10～	島根県	中川寧	H24.10～H25.3	神戸市	西岡誠司	H24.4～H25.3
神奈川県	伊丹徹	H24.4～H25.3	香川県	山下平重	H24.10～H25.3		西岡巧次	H24.10～H25.3
山梨県	田口明子	H24.4～H25.3	愛媛県	遠藤武	H24.4～H25.3			

※宮城県教委への派遣：上半期９名・下半期17名
※派遣期間の終期の記入がない場合は継続

◎平成24年度　県機関協力職員一覧

機関名	氏名	期間
東北歴史博物館	柳沢和明	H24.4～
	菊地逸夫	H24.4～H25.3
多賀城跡調査研究所	三好秀樹	H24.4～H25.3

(2) 埋蔵文化財の取り扱いについて

東日本大震災後の埋蔵文化財の取り扱いについては、文化庁が、平成23年4月28日付け（23庁財第61号）及び平成24年4月17日付け（24庁財第62号）で文化庁次長通知「東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて」により、岩手・宮城・福島・仙台市の3県1市の教育委員会教育長に対し、円滑な復興と埋蔵文化財保護の両立を図るため迅速な埋蔵文化財発掘調査を実施するよう指示し、留意点として以下の4項目を提示した。

1）事業計画の早期把握

2）調整協議　　・事業計画に周知の埋蔵文化財包蔵地が係ることを回避するよう努める

　　・周知の埋蔵文化財が事業に係ると予想される場合は早期の内容把握に努める

3）調査の迅速化　・調査の弾力的な運用に努め、設定した調査期間を厳守する

　　・民間調査組織の導入も含めた調査体制の充実を図り、迅速な実施に努める

4）地元住民及び事業者の理解を得るための取組み

これらの文化庁通知を受け、宮城県教育委員会では県内各市町村に対し、平成23年6月3日付け（文第268号）教育長通知「東日本大震災の復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて」を発出し、以下のような対応を実施している。

1）事業計画の早期把握

平成24年3月に宮城県内の事業関係者と市町村に文書で事業照会をおこなうとともに、教育委員会にも情報収集・提供を要請し、事業計画の初期段階で事業者等と遺跡の保存協議を進めるよう要望した。4月以降は、事業課と教育委員会と連絡をとりながら、復興事業と埋蔵文化財の係りについて調整協議を重ねた。この過程で、事業者側に遺跡の存在を周知した結果、複数の事業で遺跡との係わりを回避もしくは軽減することができた。その一例として石巻市牡鹿給分浜（きゅうぶんはま）貝塚をあげることができる。給分浜貝塚は牡鹿半島西岸に所在する縄文時代前期～後期・弥生時代の貝塚で、当初の復興整備計画では高台移転候補地とされていた。計画初期段階で事業者を含む関係者で現地を確認した結果、貝塚の保存状態が良好であるとの認識を共有することができ、事業者側も、大規模な遺跡が事業に係ることで高台移転の時期が遅れることは避けたいとの意向から、給分浜貝塚を高台移転候補地から除外し計画を変更することとなった。

2）調整協議

上記のような、計画段階で事業との関係を回避できた遺跡がある一方で、住民の意向や海岸部の地形的制約などから、移転候補地を変更することができず遺跡を回避できない事業もある。こうしたケースについては、5月以降、用地買収や立木補償など事業者側の条件整備を待って試掘・確認調査を順次実施した。試掘調査の結果、遺跡への影響を最小限に抑え事業を進めることができた一例として塩竈市桂島貝塚をあげることができる。桂島貝塚は、地形的に遺跡範囲から事業計画を除外することは困難であった。このため、試掘調査を実施したところ、災害公営住宅建設予定地において縄文時代の遺物包含層を検出した。この調査結果を受け、事業者と協議し、盛土上にベタ基礎を置き、給排水管を盛土内に収めるなどの工法変更を加えることで遺物包含層の破壊を免れることができた。

3）調査の迅速化

県教育委員会では、復興事業と大規模な埋蔵文化財調査の両立を図るため、盛土や掘削深度に関わる通常調査の基準を弾力的に運用することとし、復興事業に係る調査の円滑化･迅速化に努めている。平成 24 年度、宮城県内の復興事業に伴う埋蔵文化財の本発掘調査の進捗状況を、復興道路に係る調査と沿岸市町の復興整備計画に係る調査とにわけてみていく。

【復興道路に係る調査】

三陸沿岸道路・常磐自動車道は沿岸被災地を結ぶ復興道路として位置付けられ、その整備・建設事業に係わる遺跡の本発掘調査の迅速化が求められた。両事業は、震災以前の事業計画を継承・促進するものであり、国土交通省・NEXCO 東日本などの事業者側との調整協議、委託契約等の作業は平成 23 年度から順調に進められた。このため、平成 24 年度当初から、山元町谷原遺跡・涌沢遺跡、多賀城市山王遺跡などの大規模な調査をいち早く開始することができた。

図2　平成24年度 宮城県内の復興事業に伴う主な調査遺跡

【沿岸市町の復興整備計画に係る遺跡】

沿岸市町の復興事業は、平成24年2月10日の復興庁設置後、本格的に動き出した。第1回の復興交付金事業計画が3月23日に交付決定されて以降、沿岸市町の復興整備計画に基づく防災集団移転促進事業、災害公営住宅整備事業、被災市街地復興土地区画整理事業の計画が相次いで公表された。

これらの事業に係り前記の調整協議を経て本発掘調査実施に至った遺跡として、気仙沼市唐桑波怒棄館遺跡、石巻市牡鹿中沢遺跡をあげることができる。両遺跡については、7月後半に試掘・確認調査を実施した結果、縄文時代の遺構･遺物包含層を検出した。このため再度事業者と協議したが、計画変更は困難であり、事業対象地全域を記録保存の対象とする本発掘調査を実施することにした。

波怒棄館遺跡、中沢遺跡の本発掘調査は、気仙沼市、石巻市がそれぞれ調査主体となって調査準備を進め、いずれも10月下旬から本発掘調査に着手した。また、同種の大規模な調査事例として、平成25年3月から防災集団移転事業に係る南三陸町の中世の新井田館跡の調査に着手した。

上記市町主体の調査は、市町職員を中心に、宮城県職員、自治法派遣職員、宮城県任期付き職員、総務省ルート派遣職員等が支援する形で進められている。派遣職員は平均年齢40代で、経験豊富な職員が発掘調査の前線に立ち迅速な調査進行に貢献している。各遺跡とも、地元被災住民が一刻も早い完成を心待ちにする高台移転用地の事業に係る調査であるため、調査の早期終了が求められており、通常は野外調査を実施しない12月から翌年3月までの厳冬期も調査を継続している。厳冬期の調査は効率や精度が低下するなど問題はあるが、調査期間の短縮化を図り、地元住民の理解を得るために、地表面が凍結した過酷な作業環境の下でも調査を継続した。

4）地元住民及び事業者の理解を得るための取組み

震災復興事業に伴う埋蔵文化財調査は、宮城県・沿岸市町教育委員会、事業担当関係者が協議を重ね、適正な調査期間を確保した上で調査を着実に実施している。その際には、住民説明会などの場を通じて正確な情報を地元に提供し、被災住民の埋蔵文化財の保護・調査に対する理解と協力を得られるよう努めた。また、発掘調査の際には、一般向けの現地説明会を開催し、調査成果を公開するとともに調査の意義や明らかになった地域の歴史をわかりやすく丁寧に説明した。さらに、地元の小学生を対象に発掘調査体験や見学会を行うなど、子供たちが地域のかけがえのない遺跡にふれる機会をつくることにも努めた。

Ⅲ　平成 24 年度 震災復興事業関連遺跡の発掘調査

１．調査の概要

以下の調査は、復興交付金事業における埋蔵文化財発掘調査事業の交付金を得て実施したものである。沿岸市町における復興事業計画と埋蔵文化財のかかわりが予想される場合、早期に内容を把握し、調整等を行うため試掘調査を行った。

平成 24 年度は、12 事業 14 遺跡（表１）について実施した。内訳は、防災集団移転促進事業が８事業、土地区画整理事業が２事業、災害公営住宅事業が１事業、小規模住宅事業が１事業である。各試掘調査の結果は後述する。

各試掘調査の結果を受けて、再度事業者と協議・調整を行った。石巻市中沢遺跡（３）、羽黒下遺跡（５）は、計画変更が困難なことから本発掘調査を行うこととなった。一方、塩竈市桂島貝塚（４）、朴島宅地遺跡（７）は、計画変更により本発掘調査を回避した。石巻市立浜貝塚（９）、韮塚貝塚（11）は、計画等について協議・調整中である。その他の遺跡については、遺構は発見されなかったことから、本発掘調査は不要となった。

なお、復興道路に係る大規模な発掘調査は宮城県が受託し、発掘調査を実施した（表２）。さらに、復興事業に位置けられる個人住宅、零細・中小企業の再建事業、沿岸市町の復興事業に伴う発掘調査を沿岸市町が実施する場合、協力・支援を行った。平成 24 年度は、26 事業 27 遺跡（表３）である。

表１　試掘調査実施一覧表

№	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積（㎡）	調査期間	担当職員	主な発見遺構・遺物
1	防災集団移転促進事業	南三陸町	松崎館跡	南三陸町	試掘	1,150	4月25日～ 5月8日	豊村、三好 遠藤（愛媛県）	遺構・遺物なし
2	防災集団移転促進事業	南三陸町	若宮遺跡	南三陸町	試掘	470	5月21日～ 5月24日	豊村、三好 遠藤（愛媛県）	遺構・遺物なし
3	防災集団移転促進事業	石巻市	中沢遺跡	石巻市	試掘	1,050	6月25日～ 7月4日	鈴木、三好 遠藤（愛媛県）	縄文時代：遺物包含層 ピットなど、縄文土器 石器など
4	災害公営住宅事業	塩竈市	桂島貝塚	塩竈市	試掘	190	6月25日～ 7月11日	豊村、大坂 小渕（岐阜県）	縄文時代：遺物包含層 縄文土器、石器など
5	防災集団移転促進事業	石巻市	羽黒下遺跡	石巻市	試掘	1,000	7月9日～ 7月20日	大坂、三好 遠藤（愛媛県）	縄文時代：遺物包含層 ピットなど、縄文土器 石器など
6	防災集団移転促進事業	女川町	野々浜遺跡 野々浜Ｂ遺跡	女川町	試掘	30 270	8月21日～ 8月29日	山中、三好 遠藤（愛媛県）	遺構なし、縄文土器
7	小規模住宅事業	塩竈市	朴島宅地遺跡	塩竈市	試掘	146	9月24日～ 10月11日	豊村、山中 小淵（岐阜県）	平安時代：遺物包含層 貝層、土師器、須恵器 製塩土器、自然遺物など
8	防災集団移転促進事業	石巻市	青島館跡 月浜古墳群	石巻市	試掘	530	12月3日～ 12月14日	鈴木、三好 伴瀬（埼玉県）	遺構なし
9	防災集団移転促進事業	石巻市	立浜貝塚	石巻市	試掘	134	1月15日～ 1月24日	初鹿野、大橋（岡山県） 伊丹（神奈川県）	縄文時代：遺物包含層 縄文土器
10	防災集団移転促進事業	南三陸町	津の宮遺跡	南三陸町	試掘	87	2月4日～ 2月7日	初鹿野、大友	遺構・遺物なし
11	土地区画整理事業	石巻市	韮塚貝塚	石巻市	試掘	6,366	2月4日～ 3月21日	古田、濱中、菊池 高橋保（新潟県） 伴瀬（埼玉県） 西岡巧・西岡誠（神戸市）	近世：貝層
12	土地区画整理事業	女川町	内山遺跡	女川町	試掘	140	3月7日～ 3月14日	生田、古田 伴瀬（埼玉県）	遺構・遺物なし

表２　宮城県教育委員会が実施した復興事業に伴う発掘調査一覧表

№	事　業　名	事　業　主	遺　跡　名	所 在 地	調査種別	発掘面積（㎡）	調査期間	担当職員	主な発見遺構・遺物
1	三陸沿岸道路建設 （本線部多賀前地区）	国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所	山王遺跡	多賀城市	確認調査 本発掘調査	1,400 4,660	4月23日～ 12月11日	白崎、鈴木、柳澤 阿部（山形県）、末木（埼玉県）、 田口（山梨県） 伴瀬（埼玉県）、西岡巧（神戸市）、 中川（島根県）、山下（香川県）	奈良・平安時代：道路跡 掘立柱建物跡、住居跡 甕棺墓など、土師器 須恵器、木製品など
2	三陸沿岸道路建設 （多賀城ＩＣ八幡地区）	国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所	山王遺跡 市川橋遺跡	多賀城市	確認調査 本発掘調査	9,200	4月4日～ 3月29日	村田、齋藤、濱中 大坂、高橋保（新潟県） 西岡誠（神戸市） 家原（京都市） 上田（兵庫県）	古墳時代中期：住居跡 区画施設跡など、土師器、 羽口、石製模造品など 古墳時代後期：住居跡、 土坑,河川跡など、土師器 須恵器、骨角製品など 奈良・平安時代：道路跡 掘立柱建物跡、住居跡 井戸跡など、土師器 須恵器、木製品など
3	三陸沿岸道路建設 （歌津ＩＣ以北）	国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所	石川原遺跡 寺沢遺跡	気仙沼市	確認調査 本発掘調査	180 195	9月10日 ～14日	古川、豊村、山中 古田、三好、小渕（岐阜県）、 遠藤（愛媛県） 西岡誠（神戸市） 中川（島根県）	縄文時代：ピット 縄文土器
4	常磐自動車道建設	東日本 高速道路株式会社	涌沢遺跡 上宮前北遺跡 南山神Ｂ遺跡 新田Ｂ遺跡 影倉Ｅ遺跡 影倉Ｄ遺跡 荷駄馬遺跡 上小山遺跡	山 元 町	確認調査 本発掘調査	9,900 3,300 1,300 700 700 1,200 240 500	4月16日～ 12月19日	初鹿野、三浦、大友 菊池、大橋（岡山県） 伊丹（神奈川県） 武谷（佐賀県） 松本（宮崎県）	縄文時代：遺物包含層 縄文土器、石器など 奈良・平安時代：住居跡 掘立柱建物跡、 製鉄遺構など、土師器 須恵器、羽口、鉄滓 八稜鏡など 中近世：掘立柱建物跡など、 中世陶器など

表3　市町教育委員会が実施した発掘調査に協力・支援した発掘調査一覧表

№	事　業　名	事　業　主	遺　跡　名	所 在 地	調査種別	発掘面積（㎡）	調査期間	担当職員	主な発見遺構・遺物
1	工場建設	中小企業	沼崎山遺跡	登 米 市	本発掘調査	1,020	4月11日～ 4月26日	鈴木、菊池 小渕（岐阜県）	縄文時代：遺物包含層 縄文土器、石器など 平安時代：住居跡 掘立柱建物跡など、土師器 須恵器など
2	常磐自動車道建設	東日本 高速道路株式会社	谷原遺跡	山 元 町	本発掘調査	9,000	4月11日～ 4月13日	初鹿野、三浦 大橋（岡山県） 伊丹（神奈川県）	縄文時代：住居跡、遺物包含 層など、縄文土器など 古代：住居跡、掘立柱建物跡 など、土師器、須恵器など 中世：掘立柱建物跡など、中 世陶器など
3	個人住宅建設に伴う樹木 伐採作業道建設	個人	小森館跡	南三陸町	確認調査	924	4月17日・ 20日	高橋、豊村	遺構・遺物なし
4	事務所建設	中小企業	堀の内遺跡	亘 理 町	確認調査	900	5月7日～ 5月11日	鈴木 小渕（岐阜県）	中近世：土坑、溝など
5	個人住宅新築	個人	田柄貝塚	気仙沼市	確認調査	100	6月7日	豊村、三好	遺構・遺物なし
6	個人住宅新築	個人	高谷遺跡	気仙沼市	確認調査 本発掘調査	235	6月8日～ 6月12日	豊村、三好 小渕（岐阜県）	縄文時代：土坑、縄文土器な ど
7	個人住宅新築	個人	南最知貝塚	気仙沼市	確認調査	198	6月13日～ 6月18日	豊村、小渕	縄文時代の住居跡、 古代の住居跡、中世の溝跡な ど、縄文土器、土師器など
8	土地区画整理	七ヶ浜町	長須賀遺跡	七ヶ浜町	確認調査	1,000	6月26日～ 8月1日	古田、山中、三好 遠藤（愛媛県）	古代：製塩炉、遺物包含層な ど、土師器、須恵器、自然 遺物（貝）など
9	防災集団移転促進事業	気仙沼市	波怒棄館遺跡	気仙沼市	確認調査	2,964	7月17日～ 7月26日	豊村 小渕（岐阜県）	縄文時代：遺物包含層 ピットなど、縄文土器 石器など
10	個人住宅新築	気仙沼市	古館貝塚	気仙沼市	確認調査 本発掘調査	40	7月30日～ 7月31日	豊村 小渕（岐阜県）	縄文時代：土坑、縄文土器な ど
11	堤防復旧	七ヶ浜町	高山横穴墓群	七ヶ浜町	確認調査	50	8月2日～ 8月3日	古田、山中、三好 遠藤（愛媛県）	古墳時代：横穴墓、須恵器な ど
12	事務所建設	大企業	高谷遺跡	気仙沼市	確認調査	260	8月2日～ 8月3日	豊村 小渕（岐阜県）	縄文時代：遺物包含層 縄文土器、石器など
13	個人住宅新築	個人	南最知貝塚	気仙沼市	確認調査	110	8月6日～ 8月10日	三好 小渕（岐阜県） 遠藤（愛媛県）	古代：住居跡、土師器など
14	防災集団移転促進事業	気仙沼市	塚館跡	気仙沼市	確認調査	240	8月7日～ 8月10日	小渕（岐阜県） 遠藤（愛媛県）	遺構・遺物なし
15	防災集団移転促進事業	気仙沼市	南最知城跡	気仙沼市	確認調査	205	8月20日～ 8月23日	小渕（岐阜県）	遺構・遺物なし
16	個人住宅新築	個人	星谷遺跡	気仙沼市	確認調査 本発掘調査	40	9月19日～ 10月2日	三好 遠藤（愛媛県）	縄文時代：住居跡 縄文土器など
17	個人住宅新築	個人	長崎城跡	気仙沼市	確認調査	66	10月4日	三好 遠藤（愛媛県）	遺構・遺物なし
18	事務所建設	中小企業	刈米館跡	気仙沼市	確認調査	46	10月9日	三好 遠藤（愛媛県）	遺構・遺物なし
19	個人住宅新築	個人	猿喰東館跡	気仙沼市	確認調査	184	10月10日	三好 遠藤（愛媛県）	遺構・遺物なし
20	個人住宅新築	個人	相馬館跡	気仙沼市	確認調査	50	10月11日～ 10月12日	三好 遠藤（愛媛県）	遺構・遺物なし
21	個人住宅新築	個人	磯草貝塚	気仙沼市	確認調査 本発掘調査	60	10月16日～ 10月23日	山中、三好 遠藤（愛媛県）	縄文時代：遺物包含層 縄文土器、石器など
22	防災集団移転促進事業	東松島市	西権助遺跡 横山貝塚	東松島市	確認調査	262	11月19日～ 11月28日	古田 高橋保（新潟県）	古代：土師器など
23	個人住宅新築	個人	若宮遺跡	南三陸町	確認調査 本発掘調査	950	2月20日～ 2月26日	初鹿野、大友	縄文時代：ピット、縄文土器
24	防災集団移転促進事業	気仙沼市	波怒棄館遺跡	気仙沼市	本発掘調査	6,000	10月22日～ 3月19日	豊村 小渕（岐阜県） 武谷（佐賀県） 松本（宮崎県） 山下（香川県） 阿部（山形県） 家原（京都市） 田口（山梨県）	縄文時代：遺物包含層、貝 層、ピットなど、縄文土 器、石器、骨角製品、自然 遺物(貝・鹿・角など)など
25	防災集団移転促進事業	石巻市	中沢遺跡	石 巻 市	本発掘調査	20,000	10月29日～ 3月19日	山中、三好 遠藤（愛媛県） 上田（神戸市） 中川（島根県）	縄文時代：遺物包含層、住居 跡など、縄文土器、石器、 石製品、土製品など 古代：住居跡など、土師器 須恵器など
26	防災集団移転促進事業	南三陸町	新井田館跡	南三陸町	確認調査 本発掘調査	20,000	3月7日 ～ 3月19日	初鹿野、大友 末木（埼玉県）	中世：掘立柱建物跡、堀跡 土塁など

本報告書掲載の遺跡位置図

２．各遺跡の発掘調査（試掘）

１）松崎館跡（まつざきたて）

遺 跡 名：松崎館跡（県遺跡地名表登載番号 60049）

所 在 地：本吉郡南三陸町戸倉字戸倉

調査原因：防災集団移転促進事業

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：豊村幸宏（宮城県教育委員会）

三好秀樹（宮城県多賀城跡調査研究所）

遠藤　武（愛媛県派遣）

調査期間：平成 24 年 4 月 25 日～ 5 月 8 日

対象面積：約 36,000㎡

調査面積：1,150㎡

調査協力：南三陸町教育委員会

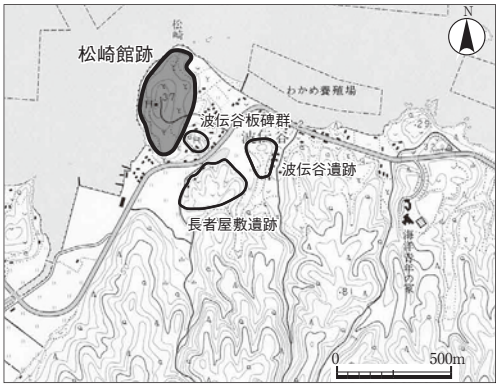


図１　遺跡の位置

写真１　遺跡近景（南西から）

(1) 調査に至る経緯

松崎館跡は波伝谷の戸倉神社の裏山に位置する遺跡で、『安永風土記御用書出』にも記されている中世の館跡である（図１）。東日本大震災における防災集団移転の候補地に遺跡範囲が含まれることから試掘調査を実施したものである。

(2) 調査の概要

宅地造成計画の切土対象地（標高 20m 以上の約 36,000㎡、魔王神社境内を除く）の中で、借地、下草刈りを行った範囲を対象に合計 21 本のトレンチ（Ｔ１～Ｔ21）を設定して試掘調査を行った（図２）。その結果、丘陵頂部北半の平坦面にあたるＴ10・11（写真２・３）で近世以降のものとみられる数個の小ピットを確認したが、その他に検出遺構はなく、遺物も出土しなかった。各トレンチとも表土下が著しく削平を受けており、Ｔ16 西部とＴ17 北端（写真４）の旧沢地を除くと旧表土は残存していなかった。

(3) まとめ

松崎館跡は中世の館跡として登録されている遺跡であるが、今回の試掘調査では館跡に関連する遺構、遺物は確認できなかった。遺跡内に残存する平坦部の多くも桑畑等の開墾や植林の際の切土によって生じたものと考えられる。しかし、本丸跡と推定される土塁状の高まりで囲まれた魔王神社の境内（写真５）は丘陵頂部北半の平坦面より一段高い位置にあり、削平を受けていない可能性が高く、境内東側には平場状の平坦部もみられる。少なくともこの場所には、館跡に関連する遺構の存在が予想される。

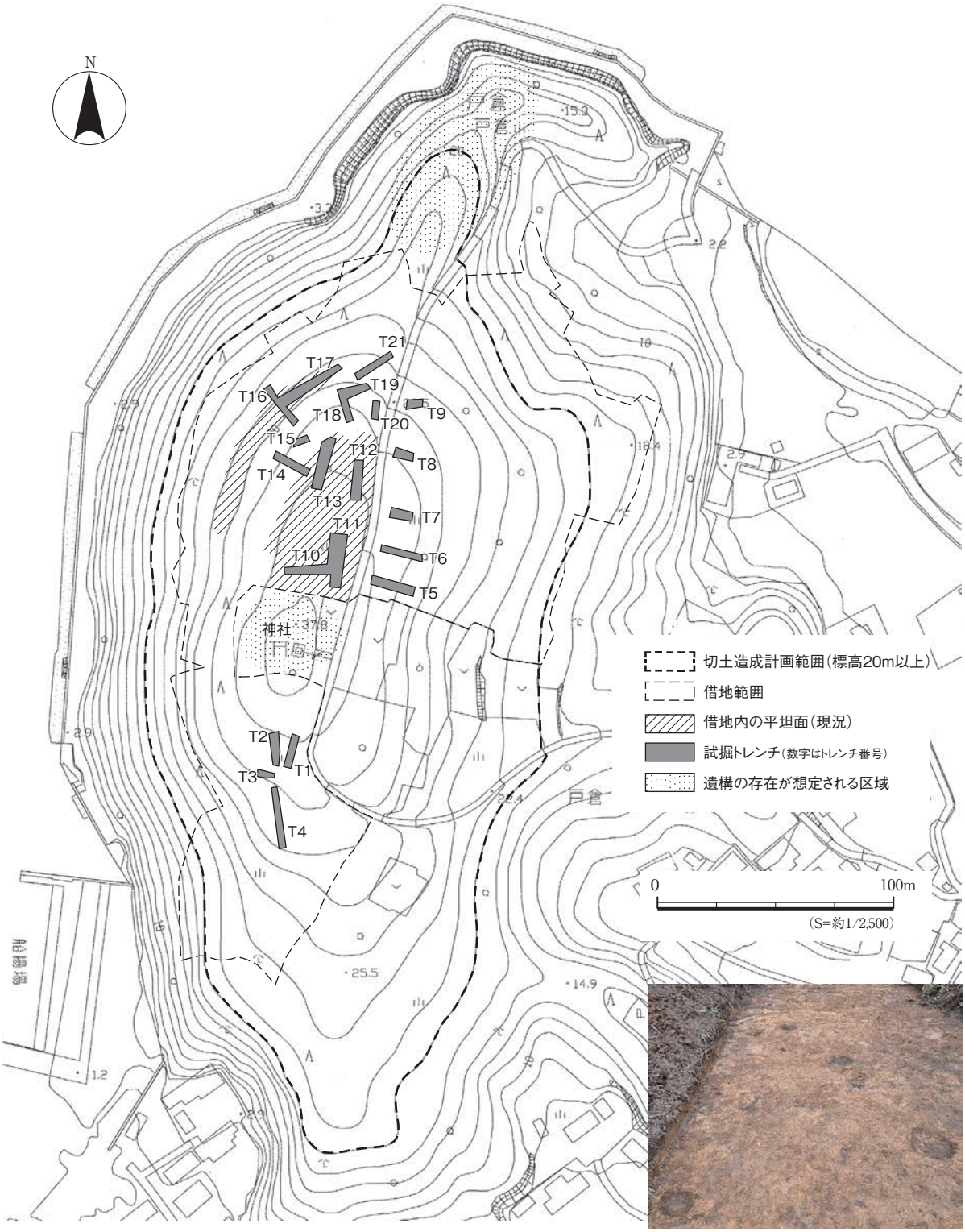


図２　試掘トレンチ配置図

写真２ T10 トレンチの小ピット
（南西から）

写真３　T11トレンチ（北から）

写真４　T17トレンチ（北東から）

写真５　神社周辺の土塁状高まり
（北東から）

2）若宮遺跡（わかみや）

遺 跡 名：若宮遺跡（県遺跡地名表登載番号 60012）

所 在 地：本吉郡南三陸町戸倉字若宮

調査原因：防災集団移転促進事業

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：豊村幸宏（宮城県教育委員会）

三好秀樹（宮城県多賀城跡調査研究所）

遠藤　武（愛媛県派遣）

調査期間：平成 24 年 5 月 21 日～5 月 24 日

対象面積：約 5,000㎡

調査面積：470㎡

調査協力：南三陸町教育委員会

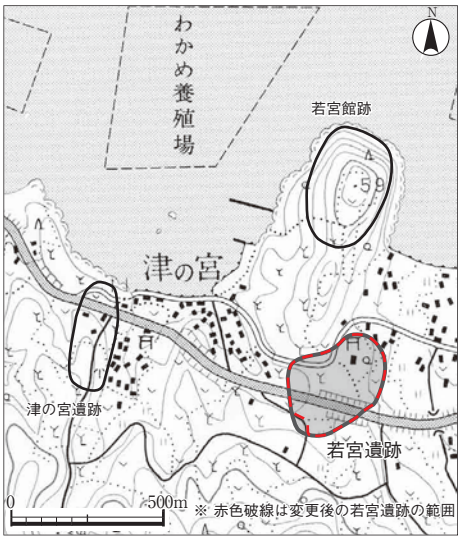


図１　遺跡の位置

(1) 調査に至る経緯

若宮遺跡は南三陸町南東部の志津川湾に面した半島（通称戸倉半島）北側に位置する縄文時代中期の散布地で、南から湾内に突き出た小丘陵の鞍部に立地している（図１）。本遺跡では、南部を東西に横切る国道 398 号線の歩道工事の際に発掘調査（平成５年）を実施している。東日本大震災における防災集団移転の候補地に遺跡範囲が一部含まれることから試掘調査を実施したものである。

(2) 調査の概要

防災集団移転候補地は、遺跡本体から浅い沢を隔てた南西側の丘陵上に位置しており、その北東部が遺跡範囲に含まれている。移転候補地の現状は放置された桑畑で、遺跡にかかる部分を中心に借地、伐採を行った後、丘陵の縁に沿って北西－南東方向に２本のトレンチ（Ｔ１・２）を入れるかたちで試掘調査

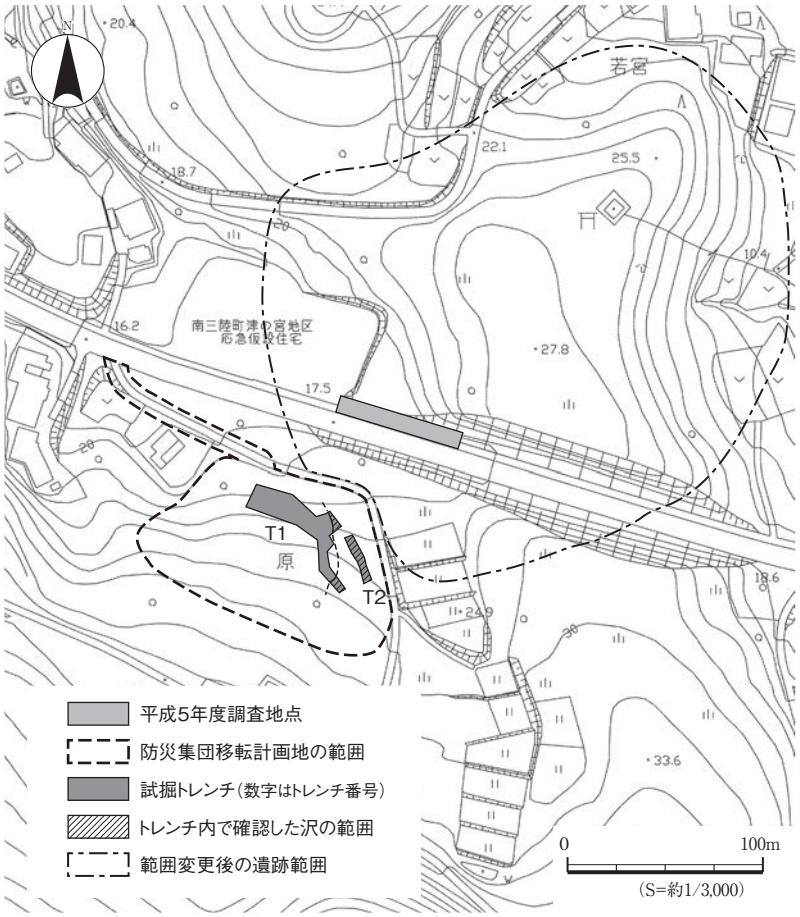


図２　試掘トレンチ配置図

を行った（図２）。

その結果、両トレンチで検出された遺構はなく、遺物も出土しなかった。Ｔ１（写真５）の大半は丘陵上にあたるが、南端部（写真３）から中央部東端（写真４）にかけて東側へ急傾斜する沢の落ち際を検出しており、Ｔ２（写真６）は沢内部であった。この沢は後世に埋められているが、それ以前の堆積土中にも遺物は含まれていなかった。

(3) まとめ

今回の試掘調査では、遺構・遺物は検出されず、若宮遺跡の西側は丘陵鞍部の西斜面に収まり、沢を挟んだ南西側の移転候補地までは拡がらないことが判明した。そのため、当課と南三陸町教育委員会で協議し、遺跡の範囲変更（移転候補地を遺跡範囲から除外）を行うこととした（図１・２）。

写真１　遺跡全景（南西から）

写真２　調査地点全景（北から）

写真３　Ｔ１トレンチ南端の沢の落ち（北東から）

写真４　Ｔ１トレンチ中央部東端の沢の落ち（南東から）

写真５　Ｔ１トレンチ北半部（南東から）

写真６　Ｔ２トレンチ南部（北西から）

3）津の宮遺跡

遺 跡 名：津の宮遺跡（県遺跡地名表登載番号 60011）

所 在 地：本吉郡南三陸町戸倉字津の宮

調査原因：防災集団移転促進事業

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：初鹿野博之（宮城県教育委員会）

大友　邦彦（宮城県教育委員会）

佐々木　潤（南三陸町教育委員会

：長野県原村派遣）

調査期間：平成 25 年２月４日～２月７日

対象面積：約 1,700㎡

調査面積：87㎡

調査協力：南三陸町教育委員会

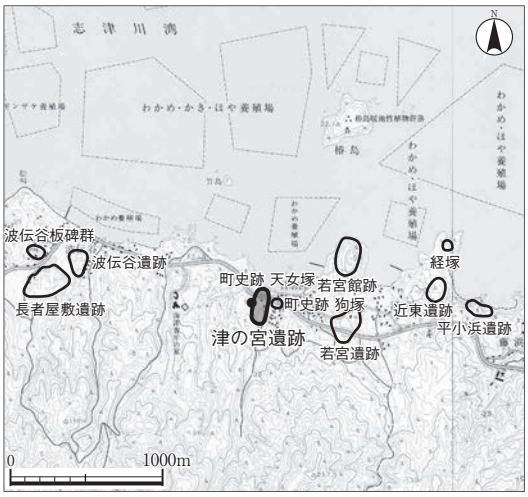


図１　遺跡の位置

(1) 調査に至る経緯

東日本大震災によって津波被害を受けた南三陸町の防災集団移転地に津の宮遺跡（縄文時代の散布地）の隣接地が候補として挙げられた（図１・２）。宅地区画部分は遺跡から外れた場所に計画をされたが、取り付け道路が遺跡の西端にかかっていた。また現地は沢を挟んで平坦面が広がり、遺跡が延びる可能性があった。そのため、試掘調査を行い、その結果をもとに遺跡に影響がないような計画を策定することとなった。

(2) 調査の概要

津の宮遺跡は、志津川湾に向かって南東から北へ延びる緩やかな丘陵部に所在する縄文時代中期の散布地として知られている。調査対象地は遺跡西側隣接地の沢（標高 13 ～ 28 m）で、現況は荒蕪地だが、過去の造成により階段状の地形になっている。

トレンチ７本（図２）を設定し重機で掘削したところ、最も高い地点にあるＴ３（写真２）は地山まで削平を受

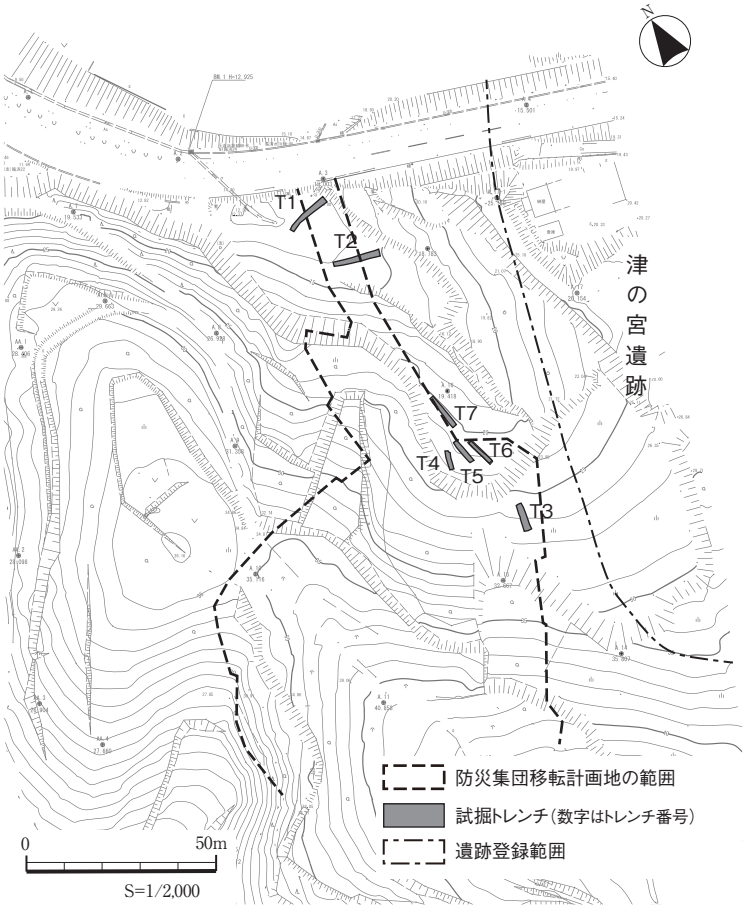


図2　試掘トレンチ配置図

けていた。Ｔ１、Ｔ２およびＴ４～Ｔ７は表土・盛土下に黒色土が堆積しており（写真３・４）、遺物の有無を確認しながら地山もしくは深さ１ｍまで重機で掘削した。Ｔ２中央部ではさらに人力で掘削をして、深さ1.8ｍで地山を確認した（写真５・６）。いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認されなかったため、遺跡は今回の調査地点まで広がらないと判断した。

写真１　調査区遠景（南から）

写真２　Ｔ３ トレンチ（北から）

写真３　Ｔ５ トレンチ（北から）

写真４　Ｔ５トレンチ南東端断面（西から）

写真５　Ｔ２トレンチ（西から）

写真６　Ｔ２トレンチ中央断面（南から）

4）青島館跡（あおしまたて）/ 月浜古墳群（つきはまこふん）

遺 跡 名：青島館跡・月浜古墳群（県遺跡地名表登載番号 72020・72030）

所 在 地：石巻市北上町十三浜字月浜

調査原因：防災集団移転促進事業

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：鈴木啓司（宮城県教育委員会）

三好秀樹（宮城県多賀城跡調査研究所）

伴瀬宗一（埼玉県派遣）

調査期間：平成 24 年 12 月 3 日 ～ 12 月 14 日

対象面積：約 9,200㎡

調査面積：530㎡

調査協力：石巻市教育委員会

石巻市震災復興部集団移転対策課

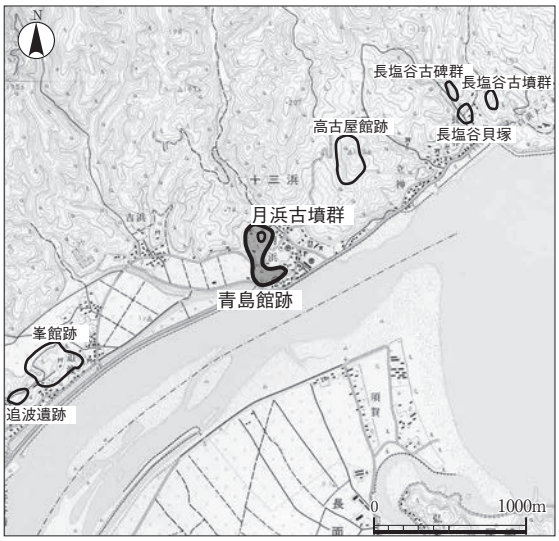


図１　遺跡の位置

(1) 調査に至る経緯

青島館跡・月浜古墳群は、追波湾に注ぐ北上川河口の左岸に位置し、標高約 30 ～ 35 mの丘陵上に立地する。青島館跡は中世、月浜古墳群は古墳・奈良時代の遺跡である（図１）。今回、遺跡の中央部が防災集団移転促進事業の計画地に含まれることから、試掘調査を実施することとなった。

(2) 調査の概要

調査対象地は、石巻市北上町十三浜字月浜に所在し、北上川の河口左岸に面した丘陵端部に位置する。この丘陵の尾根筋は、北側の山地から南の北上川方向に延びている。調査対象地の標高は約 35 mである。丘陵の上面は平坦で、その範囲は北側の広い部分で東西約 60 m、狭い南側の部分で東西約 20 m、南北約 50 mである。地形的には北西部が高く、南に向かって傾斜している。

丘陵頂部を中心に 16 本のトレンチ（Ｔ１～Ｔ16）を設定した（図２）。調査の結果、古墳群及び館跡としての遺構は確認されなかった。遺物はＴ12 から時代不明の土器細片が１点出土したのみであった。

東側斜面のＴ11、Ｔ12 において、流れ込みによる黒色の堆積土を確認したほかは、すべて表土下が 20 ～ 30cm 程度で、岩盤層もしくは風化礫層となり、後世に削平改変されている。

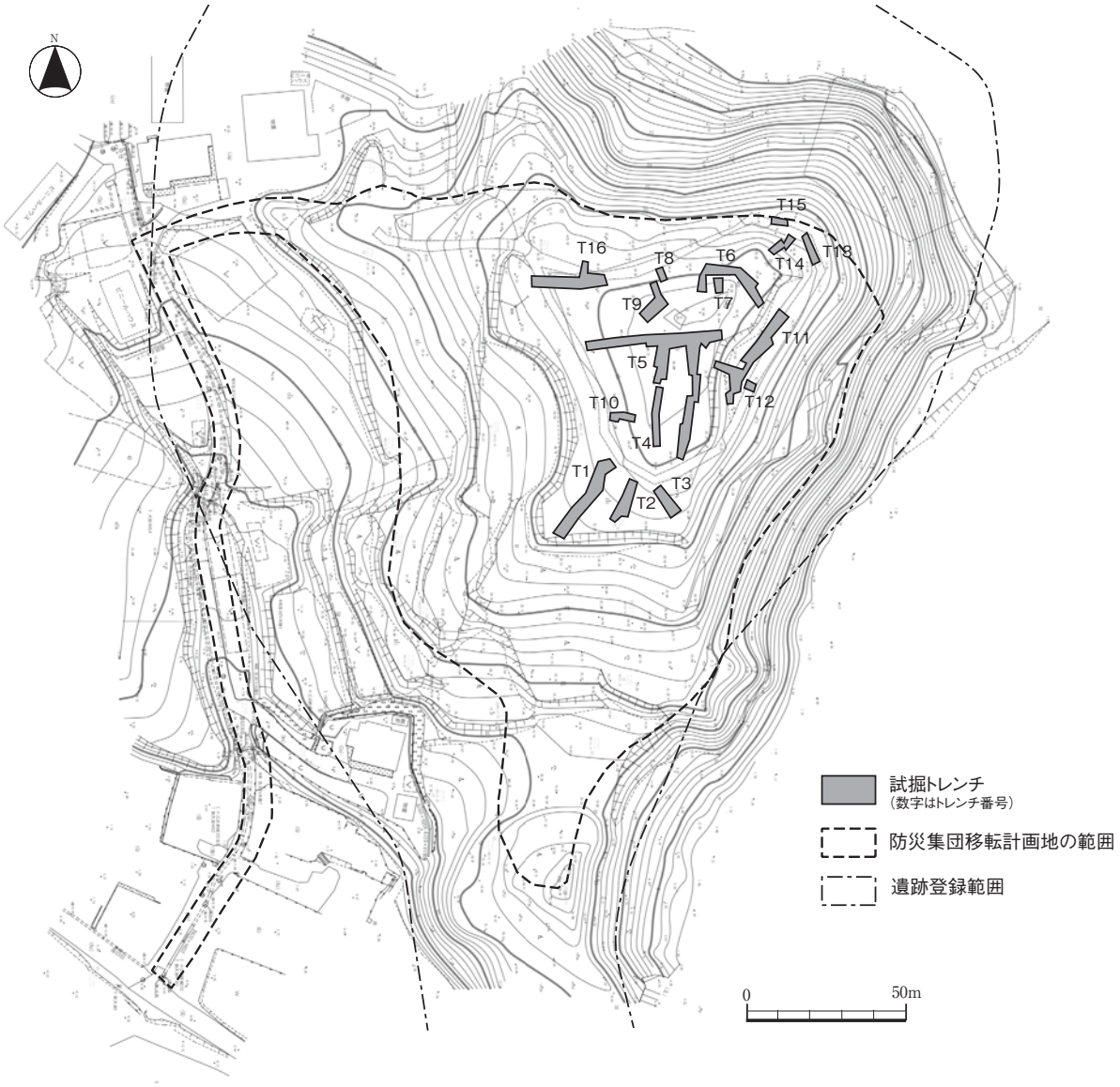


図２　試掘トレンチ配置図

写真１　遺跡遠景（南東から）

写真２　T１トレンチ（北から）

5）立浜貝塚（たちはまかいづか）

遺 跡 名：立浜貝塚（県遺跡地名表登載番号 68009）

所 在 地：石巻市雄勝町立浜字天神

調査原因：防災集団移転促進事業

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：初鹿野博之（宮城県教育委員会）

伊丹　徹（神奈川県派遣）

大橋雅也（岡山県派遣）

調査期間：平成 25 年 1 月 15 日～ 1 月 22 日

対象面積：約 2,000㎡

調査面積：134㎡

調査協力：石巻市教育委員会　石巻市雄勝総合支所

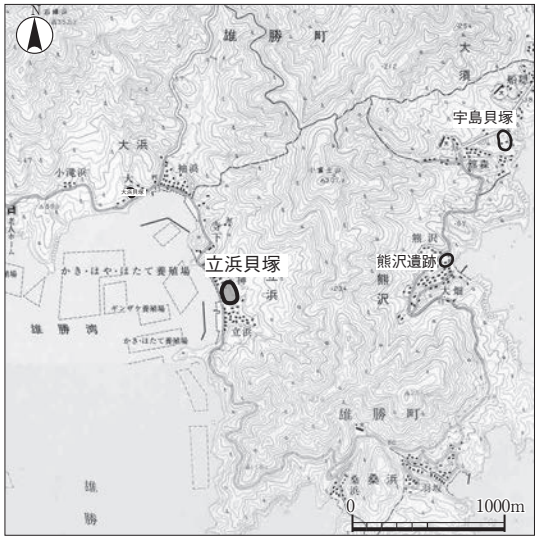


図１　遺跡の位置

(1) 調査に至る経緯

東日本大震災によって津波被害を受けた石巻市雄勝町立浜地区における防災集団移転地に、立浜貝塚が所在する丘陵先端部が候補として挙げられた（図１）。このため、県教育委員会は事業主体者である石巻市雄勝総合支所地域振興課と協議を重ね、遺跡範囲から計画地を外し、隣接地に変更することとなった。しかしながら、現地確認の際に計画範囲の丘陵一帯で縄文土器を表採し、遺跡範囲が広がることが予想されたため、変更計画地においても試掘調査を行うこととした。なお、事業進捗状況にあわせて、宅地造成地への取り付け道路部については、試掘調査を先行して平成 24 年度に着手した。現況は山林と一部開墾された畑地である。

(2) 調査の概要

立浜貝塚は、雄勝湾に向かって北東から西へ延びる標高 10 ～ 20 mほどの緩やかな丘陵部に所在する。雄勝湾内の貝塚の中でも最も大きな貝塚の一つであり、縄文時代前期・中期・晩期の土器、石鏃・石匙・石剣・独鈷石などの石器や、人骨・貝・魚骨類の出土が知られている。貝層自体の範囲は本格的な発掘調査が実施されていないため詳細は不明である。

平成 24 年度の試掘調査対象地は宅地造成地への取り付け道路部分であり、路線部にあたるこの丘陵の緩やかな南斜面に５本のトレンチ（Ｔ１～Ｔ４・Ｔ７）、これより一段高い丘陵尾根付近に２本（Ｔ５・Ｔ６）、さらに丘陵から谷を挟んだ東向きの緩斜面にも１箇所（Ｔ８）の調査区を設け、遺跡の範囲・内容確認を目的とし、試掘調査を行った（図２）。その結果、南斜面部に設定したトレンチの表土層直下で縄文時代前期～晩期にわたる遺物を包含する黒褐色土層を検出した。なお、貝類などの自然遺物は確認されていない。

(3) 発見した遺構と遺物

遺構：丘陵南側緩斜面部に設けたＴ１～Ｔ４において、10 ～ 15cmほどの現耕作土下で、黒褐色シ

ルト質土層を確認した。丘陵斜面の傾斜変換部分に堆積したと推測されるこの層の上半は、縄文時代前期～晩期の遺物を比較的多く包含しているが、下半は地山ブロック土を多く含み、遺物はほとんど含まない。この遺物包含層は、最も厚い部分で80cmほどを測る。なお、Ｔ１でこの上半と下半の境界付近で焼土を部分的に確認できたが、性格は不明である。また、この層の下位は黄褐色粘土からなる丘陵基盤層である。

これらのトレンチより一段高い部分に設定したＴ５・Ｔ６では現耕作土直下で丘陵基盤層となり、遺構・遺物は検出できなかった。また、Ｔ７においても耕作に関わる造成土が基盤層直上にあり、遺物包含層は確認できない。Ｔ８は上記のトレンチを設定した丘陵から谷を挟んだ南下方に設けた。ここでは、地山礫層が比較的浅い部分で認められ、また、近世陶磁器を含む土層を確認したことから、現況の緩やかな平坦部分は自然地形ではなく、後世の改変によるものと判断される。

遺物：ほとんどが小破片の土器であり、時期は縄文時代前期～晩期のものがある。石器は磨石や石皿状のものがあるが剥片類は確認していない。なお、貝・魚骨などの自然遺物はこの層からは認められなかった。

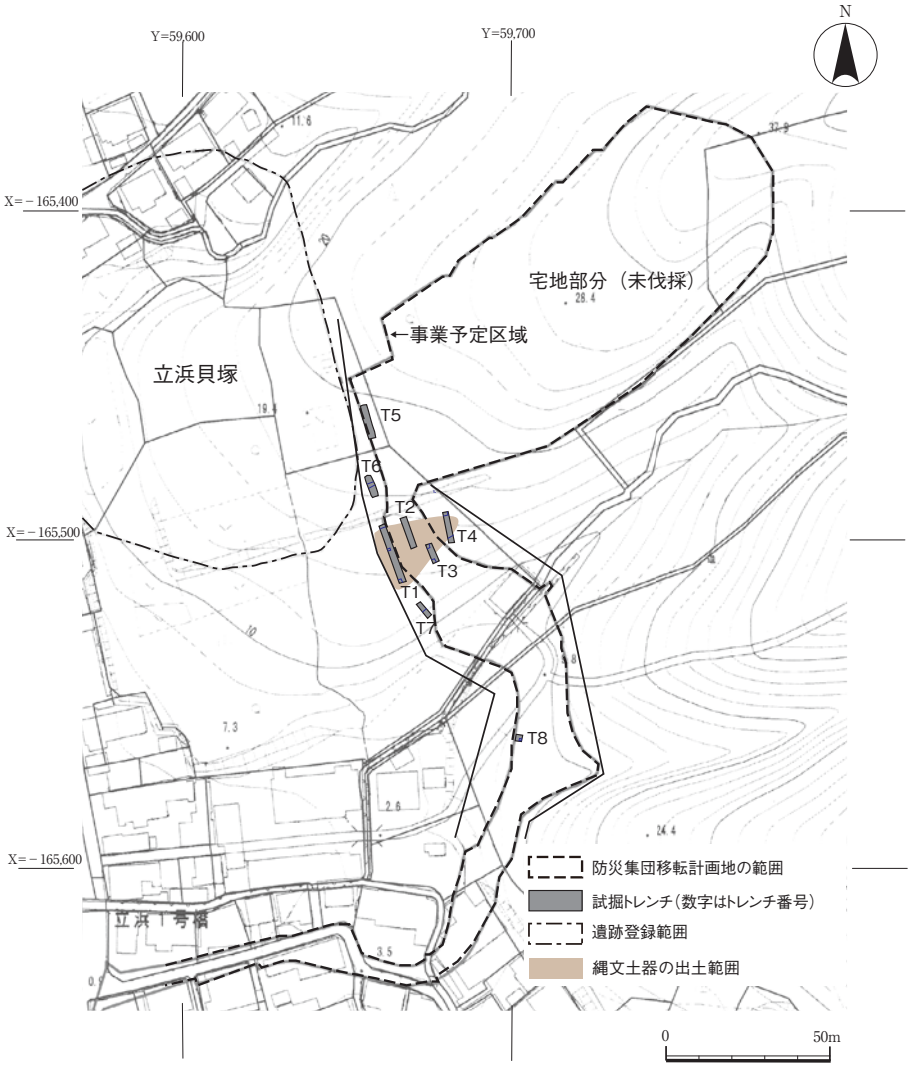
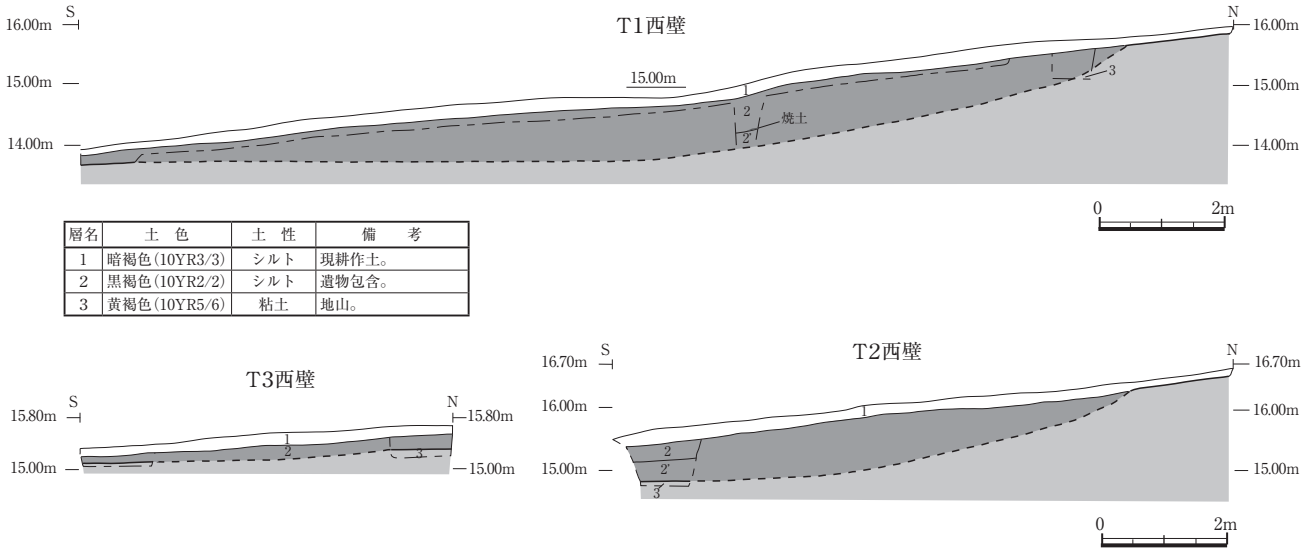


図２　試掘トレンチ配置図

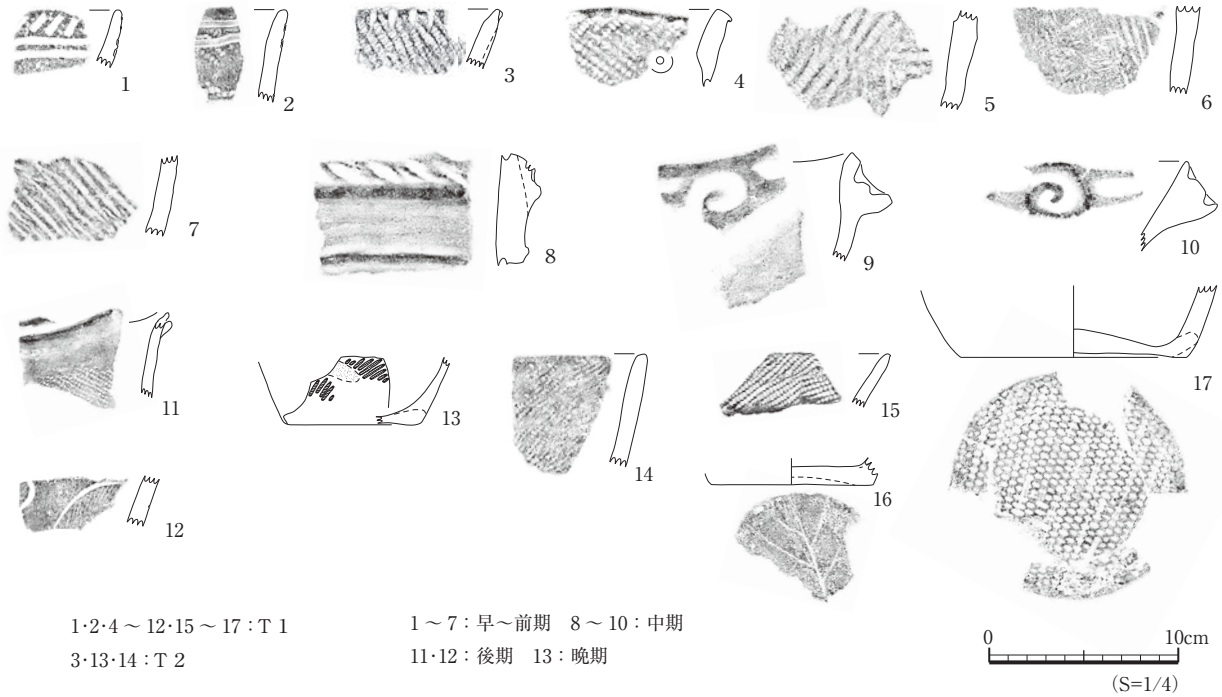
(4) まとめ

立浜貝塚として現在周知登録されている範囲は、雄勝湾に向かって張り出す丘陵先端部分であり、今回の調査は、隣接するその南側斜面を中心に遺跡範囲の確認および内容把握を目的とした。その結果、現耕作地のために削平されている箇所はあるものの、縄文時代前期～晩期にかけての遺物を包含する斜面堆積層を検出した。出土遺物は小片が多く、またその時間幅から考えて長期間にわたって斜面堆積が進行したものと思われ、これらは本来斜面上方の丘陵上の集落等に由来する遺物であると推測できる。なお、丘陵斜面の傾斜形状を勘案すると、現在周知されている遺跡範囲よりさらに丘陵上方の宅地造成予定部分にも当該期の集落が展開する可能性は高い。



層名	土　色	土　性	備　　考
1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	現耕作土。
2	黒褐色(10YR2/2)	シルト	遺物包含。
3	黄褐色(10YR5/6)	粘土	地山。

図３　トレンチ断面図



1･2･4～12･15～17：Ｔ１
3･13･14：Ｔ２

1～7：早～前期　8～10：中期
11･12：後期　13：晩期

図４　出土遺物

写真１　遺跡遠景（南西から）

写真２　T1・T2トレンチ（東から）

写真３　T1トレンチ北端部分土層断面（東から）

写真４　T２トレンチ遺物含層検出状況（南東から）

写真５　T５トレンチ（南から）

写真６　T７トレンチ（南西から）

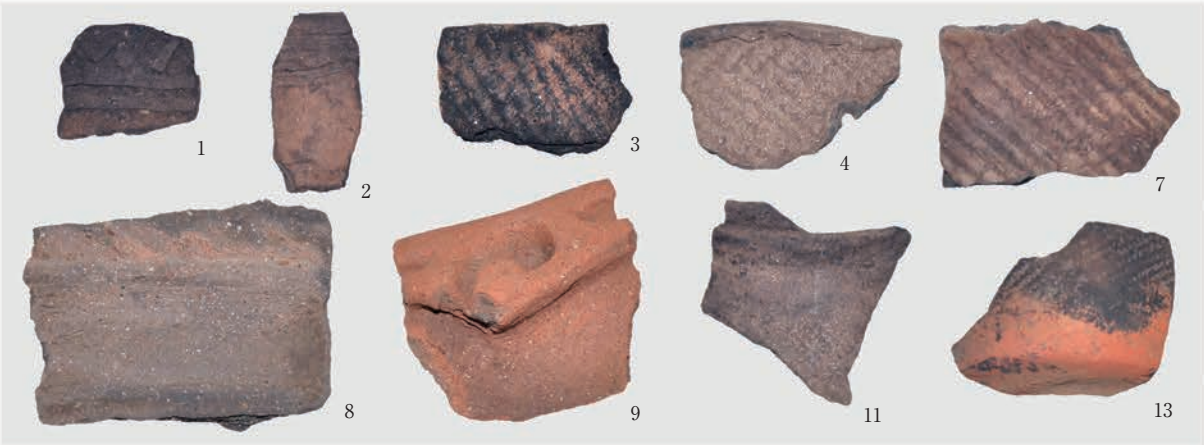


写真７　出土遺物　　数字は図４の番号と対応　　S≒1/2

6）韮塚貝塚（にらづかかいづか）

遺 跡 名：韮塚貝塚（県遺跡地名表登載番号 65022）

所 在 地：石巻市渡波字新沼他

調査原因：被災市街地復興土地区画整理事業（新渡波地区）

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：古田和誠（宮城県教育委員会）

濵中一道（宮城県教育委員会）

菊地逸夫（東北歴史博物館）

高橋保雄（新潟県派遣）

西岡巧次（神戸市派遣）

西岡誠司（神戸市派遣）

伴瀬宗一（埼玉県派遣）

調査期間：平成 25 年 2 月 25 日～ 3 月 21 日

対象面積：約 60,000㎡

調査面積：6,366㎡

調査協力：石巻市教育委員会

図１　遺跡の位置

(1) 調査に至る経緯

韮塚貝塚は、万石浦湾口の北岸地域に位置し、標高１～３ｍの東西に延びる浜堤上に立地する縄文・古墳時代、古代、近世の貝塚である（図１）。遺跡の東半部では貝殻の集中地点が認められるが、西半部では希薄となることがうかがえる。今回、遺跡西半部が新渡波地区被災市街地復興土地区画整理事業の計画地に含まれることから、試掘調査を実施することとなった。

(2) 調査の概要

調査対象地は、ＪＲ石巻線渡波駅から北西へ約 600 ｍあまりの石巻市渡波鹿松韮塚に所在し、標高約１～３ｍ程の浜堤状の高まりに立地する（写真１）。周辺では以前から貝殻が散見されており、貝塚ではないかと認識されていた。遺跡の範囲は、東西約 1,000 ｍ、南北約 200 ｍ、そのうち今回対象となる範囲は、石巻線以東の東西約 400m、南北約 300m である。現況は、水田および畑であった。

写真１　遺跡遠景（北西から）

調査は図２のとおり、ほぼ南北方向に約 20 ｍ間隔で、合計 20 本のトレンチを入れた。トレンチは、

図２　試掘トレンチ配置図

浜堤と想定される高まりが東西方向に伸びていることから、それを横断するかたちで設定した（図２）。

基本層序は、上から表土（耕作土）、シルト層、砂層である。今回の遺構確認面は、トレンチ調査ということもあり、砂層上面とした。原則砂層が地山と考えていい。

当初、対象地が現況で周辺より帯状に高まっていたことから、浜堤と考えられていたが、調査の結果、畑地にするために後世運び込まれた客土であることが判明した。シルト層のほとんどは客土である。調査区における旧地形は、全体に北東方向から南西方向に緩やかに傾斜する。そのため、Ｔ１～Ｔ３の南端が地形的に最も低い。

確認面までは、どのトレンチも北端が最も深く、最大値で 1.4m 程度あった。おなじく南端が最も浅く、最小値で 20cm 程度に過ぎない。

（3）発見した遺構と遺物

遺構：調査の結果、多数のピット、溝跡等を検出したが、いずれも掘り方が浅く、覆土もしまりがないうえ、遺物も出土しない。溝跡等の一部は埋土の特徴や方向が、この地区の区画と

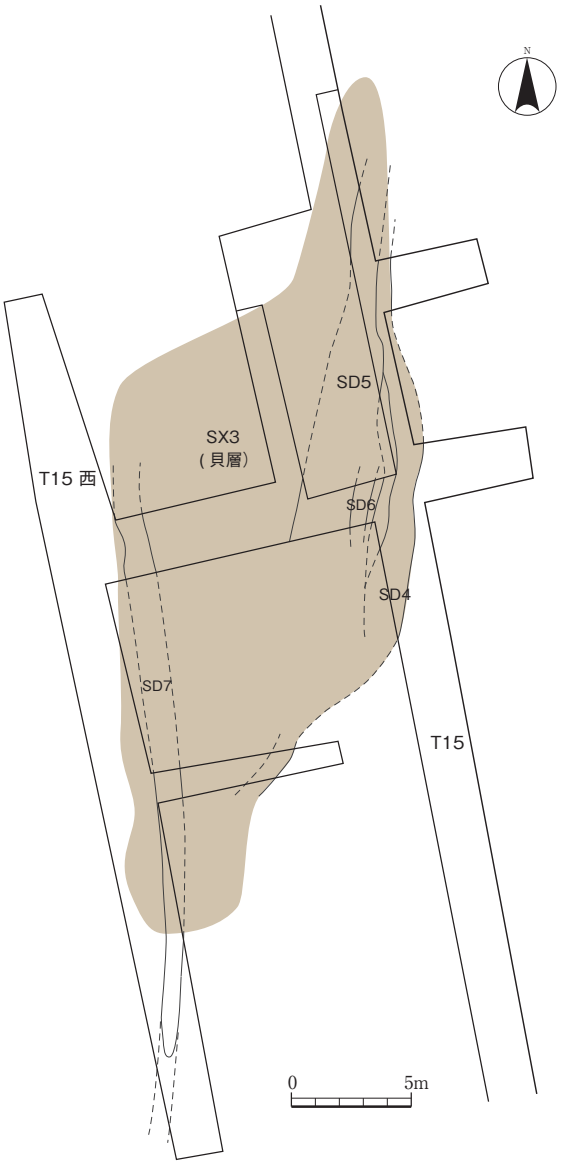


図３　貝層分布図

類似することから、最近の水田や畑等の耕作に関連するものと考えられる。

その中にあって、T15 付近で、貝類・魚骨が集積した貝層の広がりを検出した（図２・３）。検出面は表土直下である。T15 を拡張し調査した結果、貝層は南北 32 m、東西 13 mの長楕円形に広がり、面積は 250㎡ほどと推定される。貝層の厚さは 10cm から 30㎝程度である。

さらにサブトレンチを入れるなど部分的に精査したところ、貝層の広がりの下から、貝類で埋まった溝跡４条（SD４～７）を検出した。貝層下の溝跡には、貝類のほか灰白色火山灰のブロックを含む黒褐色シルトで埋まるものと、灰白色火山灰層を明確に切る黒褐色シルトで埋まるものがある。

貝層下の溝跡の一部は、灰白色火山灰降下期より新しく、その上層の貝層もさらに新しい。

貝の種類には、アサリ、ハマグリ、アカニシ、アカガイなどがあった。

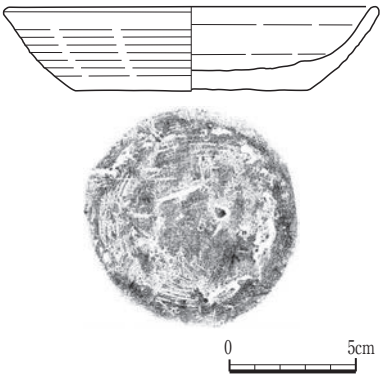


図４　出土遺物

遺物：遺構に伴う遺物はない。貝層に伴う自然遺物としての貝、魚骨類以外の遺物は皆無である。

T13 の表土直下では大型のかわらけが出土している（図４）。口径 13cm、底径 9.2cm、器高 3.3cm を測る。ロクロ成形で、底部は糸切りのあと指ナデ、内面も指ナデしている。12 世紀後半～ 13 世紀と考えられるが、遺構にかかわるものではない。そのほか、現況畑の耕作土から古代の土師器や須恵器、近世から明治・大正期と考えられる陶器類が表採されている。遺物の総量は１/ ３箱である。

(4) まとめ

今回検出された貝層からは、土器等の人工遺物がまったく出土しなかった。そのため、現状では時期を特定することはできない。しかし、灰白色火山灰の検出状況から 10 世紀以前にさかのぼることはない。

問題はどこまで時期が下るか、ということである。傍証でしかないが、以下のことを参考のために示しておく。

韮塚貝塚付近を描いた絵図が残されている。1707 年に描かれた『牡鹿郡万石浦絵図』である。現地形に極めて整合し、韮塚貝塚の位置も特定できる。

絵図作成の目的は漁業権に関する争いの調停のためである。このころ争いが起きるほどの多くの海産物、特にカキをはじめとした貝類が万石浦において獲れたようである。このことから 18 世紀初頭に、大量の貝が消費されていたことは容易に想像がつく。

写真２　T12～15トレンチ
SX3貝層 全景（南から）

写真３　T12～15トレンチ
SX3貝層東西断面１（北から）

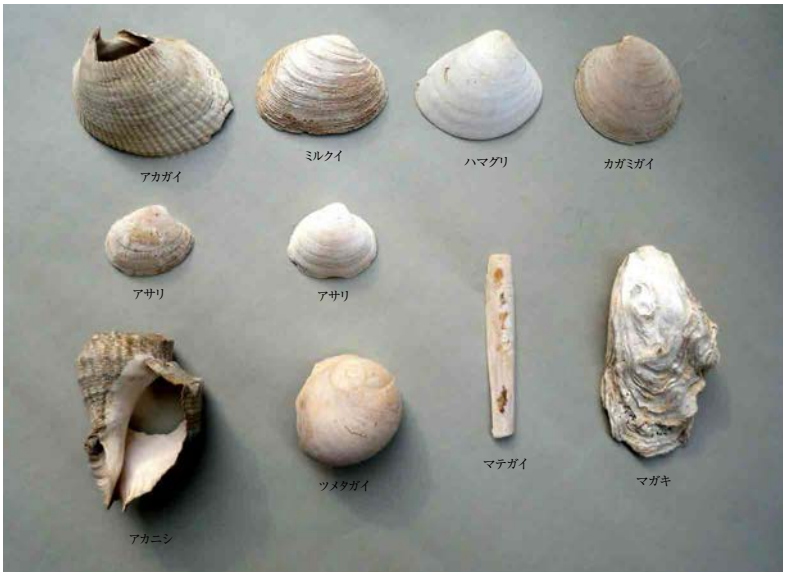


写真4　出土遺物（貝類）

7）中沢（なかざわ）遺跡

遺 跡 名：中沢遺跡（県遺跡地名表登載番号 74012　遺跡記号 WK）

所 在 地：石巻市給分浜字清水地内

調査原因：防災集団移転促進事業

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：鈴木啓司（宮城県教育委員会）

三好秀樹（宮城県多賀城跡調査研究所）

遠藤　武（愛媛県派遣）

調査期間：平成 24 年 6 月 25 日～7 月 4 日

対象面積：約 20,000㎡

調査面積：1,050㎡

調査協力：石巻市教育委員会

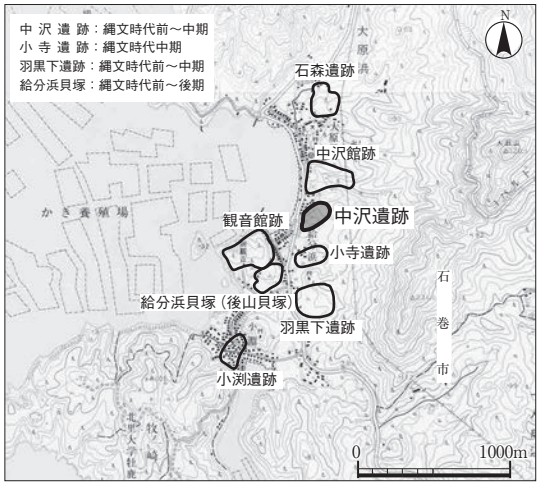


図1　遺跡の位置

(1) 調査に至る経緯

中沢遺跡は牡鹿半島南西部の給分浜に面した丘陵上に立地する縄文時代前～中期の散布地であり、現状は畑地・荒地・山林となっている（図１）。東日本大震災における防災集団移転の候補地に遺跡範囲が含まれることから試掘調査を実施したものである。

(2) 調査の概要

移転候補地（全面切土）の範囲がほぼ遺跡全域に及ぶものの、杉林内は未伐採で調査が困難であったため、中央部の畑地・荒地を対象とし、丘陵の尾根筋に沿った平坦部と南・北斜面に合計 20 本のトレンチ（Ｔ１～Ｔ20）を入れるかたちで試掘調査を行った（図２）。

写真１　遺跡遠景（北西から）

その結果、中央部には南北両側から入り込む沢が認められ、この沢の部分に遺物包含層（北・南包含層）が形成されていることが判明した。また、南包含層北側の緩斜面ではピット群の存在も確認している。尾根筋に沿った平坦部では遺構は検出されず、桑畑などの開墾の際に大きく削平を受けていることがわかった。

写真２　北斜面（T1 周辺、南東から）

(3) 発見した遺構と遺物

移転候補地の中央、丘陵の尾根筋に沿った平坦部に南北から入り込む沢内部でそれぞれ遺物包含層を確認した。また、南包含層北側の緩斜面ではピット群を検出している。北・南包含層からは上川名Ⅱ式、大木１～６式の縄文土器片や剥片石器、礫石器、玦状耳飾り・石剣などの石製品などが出土している。

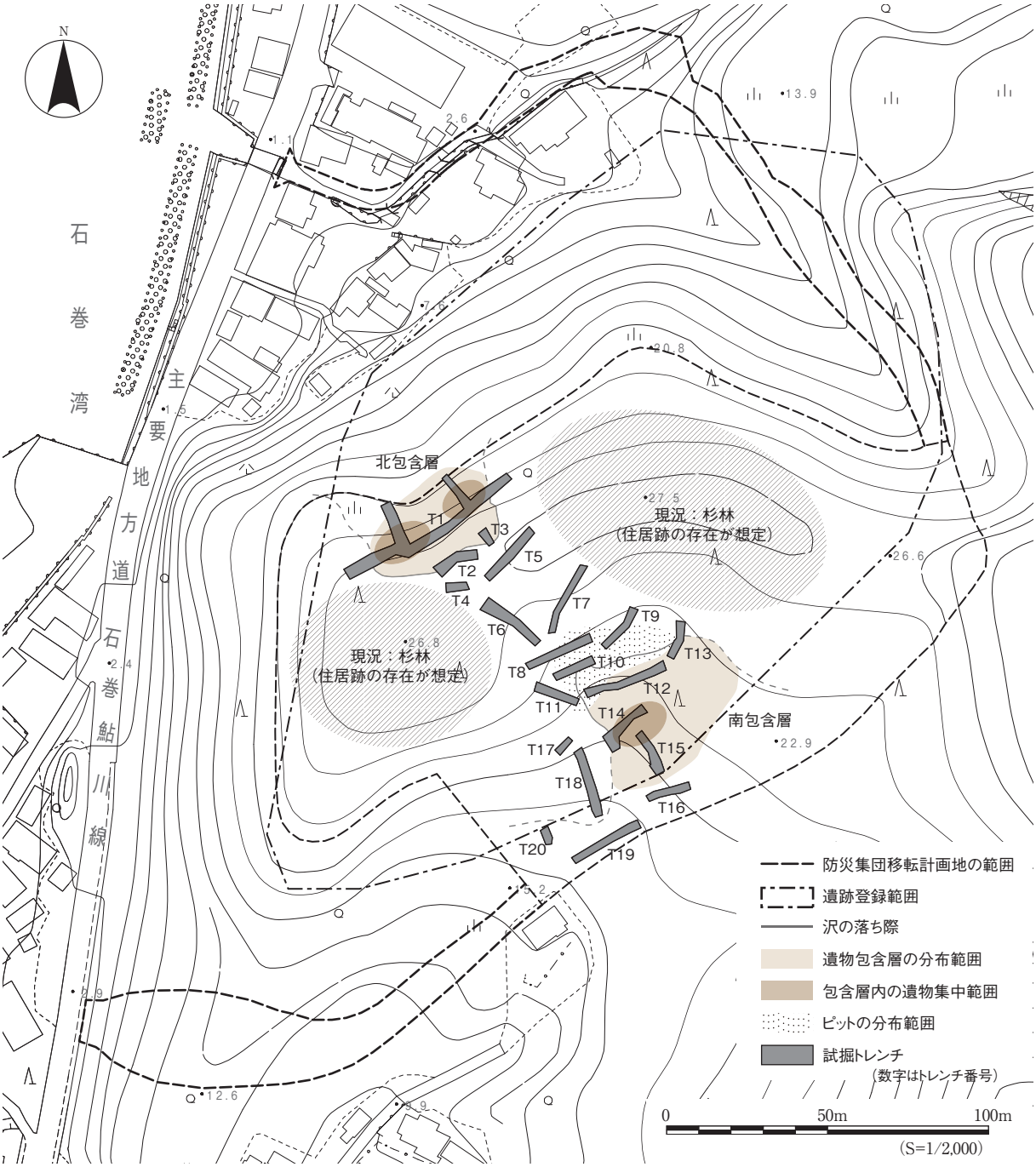


図2　試掘トレンチ配置図

写真３　北包含層（T1 南西部、北東から）

写真４　南斜面（T14～18 周辺、南西から）

写真５　南包含層（T14 南西部、南西から）

【北包含層】（図２・３）

東西約 40 m、南北約 33 mの範囲（Ｔ１～３）に広がる縄文時代前期の遺物包含層で、Ｔ１内の２

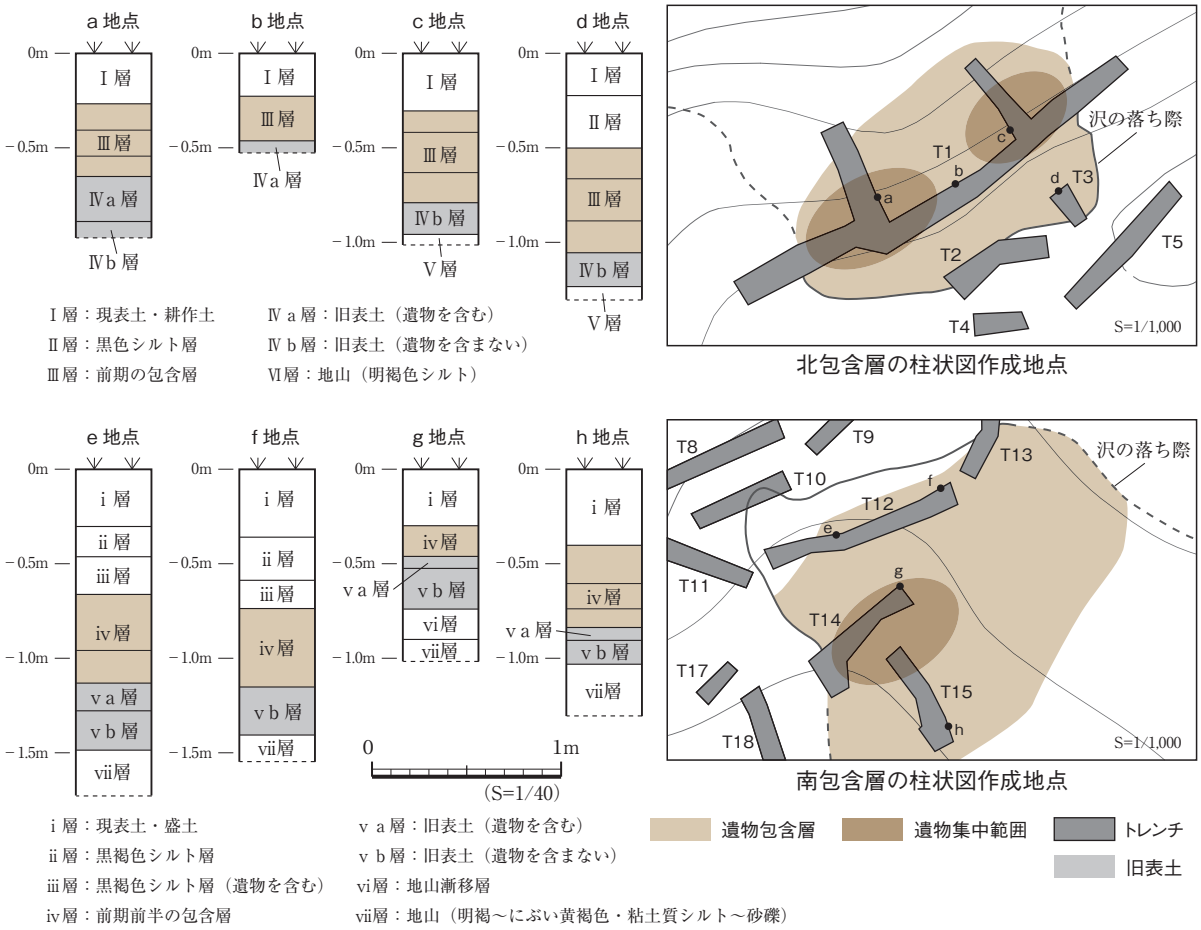


図３　遺物包含層断面柱状図

写真６　T1 断面（a 地点、南西から）

写真７　T1 断面（c 地点、北東から）

写真８　T14 断面（g 地点、南西から）

箇所から遺物が集中して出土している。本層は厚さ 30cm前後で、暗褐～黒褐色シルトを主体としており、断ち割った部分では数枚に細分できる。出土遺物には、上川名Ⅱ式、大木１～６式の縄文土器片や剥片石器、礫石器、玦状耳飾り・石剣などの石製品などがある。

【南包含層】（図２・３）

東西約 50 m、南北約 43 mの範囲（T12 ～T15）に広がる縄文時代前期前半の遺物包含層で、T14 周辺に遺物の集中が認められる。本層は厚さ 15cm ～ 50cm で、暗褐～黒褐色シルトを主体としており、断ち割った部分では数枚に細分できる。出土遺物には、上川名Ⅱ式、大木１～３式の縄文土器や石器、石製品などがみられる。

【ピット】（図２）

南包含層北側の緩斜面（Ｔ８～Ｔ12）に多く認められ、特にＴ９･10 西側、Ｔ12 西端に多く分布する。径は 20 ～ 40㎝のものが多く、いずれのピットからも遺物は出土していない。

(4) まとめ

今回の試掘調査では遺物包含層２箇所やピット群などを確認しており、この分布範囲を対象とした本発掘調査を実施する必要がある。また、尾根筋周辺のトレンチでは遺構が検出されなかったものの、住居跡などの遺構の存在が想定される最も良好な頂部の平坦面が杉林で未調査となっている。移転候補地に含まれるこの杉林内及び周辺の未調査部分について早期に確認調査を行い、状況を把握する必要がある。

図4　出土遺物（縄文土器）

8）羽黒下（はぐろした）遺跡

遺 跡 名：中沢遺跡（県遺跡地名表登載番号 74007　遺跡記号 WL）

所 在 地：石巻市給分浜字羽黒下

調査原因：防災集団移転促進事業

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：大坂　拓（宮城県教育委員会）

　　三好秀樹（宮城県多賀城跡調査研究所）

　　遠藤　武（愛媛県派遣）

調査期間：平成 24 年 7 月 9 日～ 7 月 20 日

対象面積：約 17,000㎡

調査面積：約 1,000㎡

調査協力：石巻市教育委員会

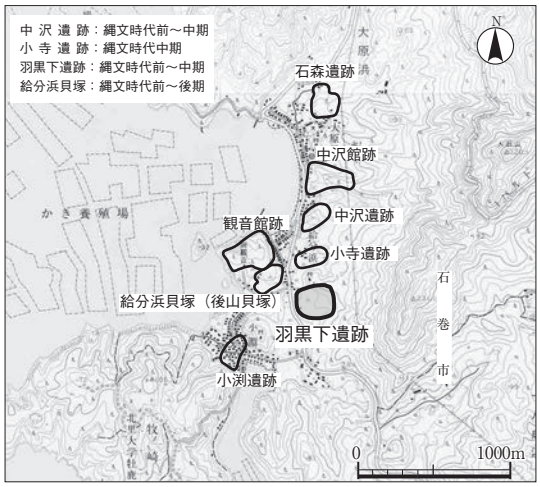


図1　遺跡の位置

(1) 調査に至る経緯

羽黒下遺跡は牡鹿半島南西部の給分浜に面した丘陵上に立地する縄文時代前～中期の散布地で、中沢遺跡の南約 400 m に位置している（図１）。現状は畑地・荒地・山林で、羽黒神社下の北西斜面に遺物の散布が多く認められる。東日本大震災における防災集団移転の候補地に遺跡範囲が含まれることから試掘調査を実施したものである。

写真１　遺跡近景（南西から）

(2) 調査の概要

防災集団移転の候補地が遺跡南西部に及ぶことから、この範囲を対象に試掘調査を行ったが、対象地東部の杉林内は未伐採のため、部分的な調査に留めた。西～中央部では丘陵の尾根筋に沿った平坦面と南西斜面に計 27 本のトレンチ（Ｔ１～Ｔ27）を入れ、東部では杉林内の北西斜面３箇所（ST１～ ST３）で試掘を行った（図２）。

その結果、中央部には南から入り込む沢が認められ、この沢の内部から南西斜面にかけて２箇所で遺物包含層（南Ⅰ・Ⅱ包含層）が形成されていることが判明し、北西斜面の調査でも遺物包含層（北包含層）を検出している。また、南Ⅰ・Ⅱ包含層の北東側にあたる緩斜面ではピット群の存在も確認した。尾根筋に沿った平坦部では、遺構は検出されていない。

(3) 発見した遺構と遺物

移転候補地の中央、丘陵の尾根筋に沿った平坦部に南から入り込む沢の内部で２箇所（南Ⅰ・Ⅱ包含層）、杉林内の北西斜面で１箇所（北包含層）の遺物包含層を確認した。これらの包含層からは大木１・２・４～８式の縄文土器片や石器、石製品などが出土している。また、南Ⅰ・Ⅱ包含層の北東側にあたる緩斜面ではピット群を検出したが、遺物は出土していない。なお、T12 の表土からは十三塚式

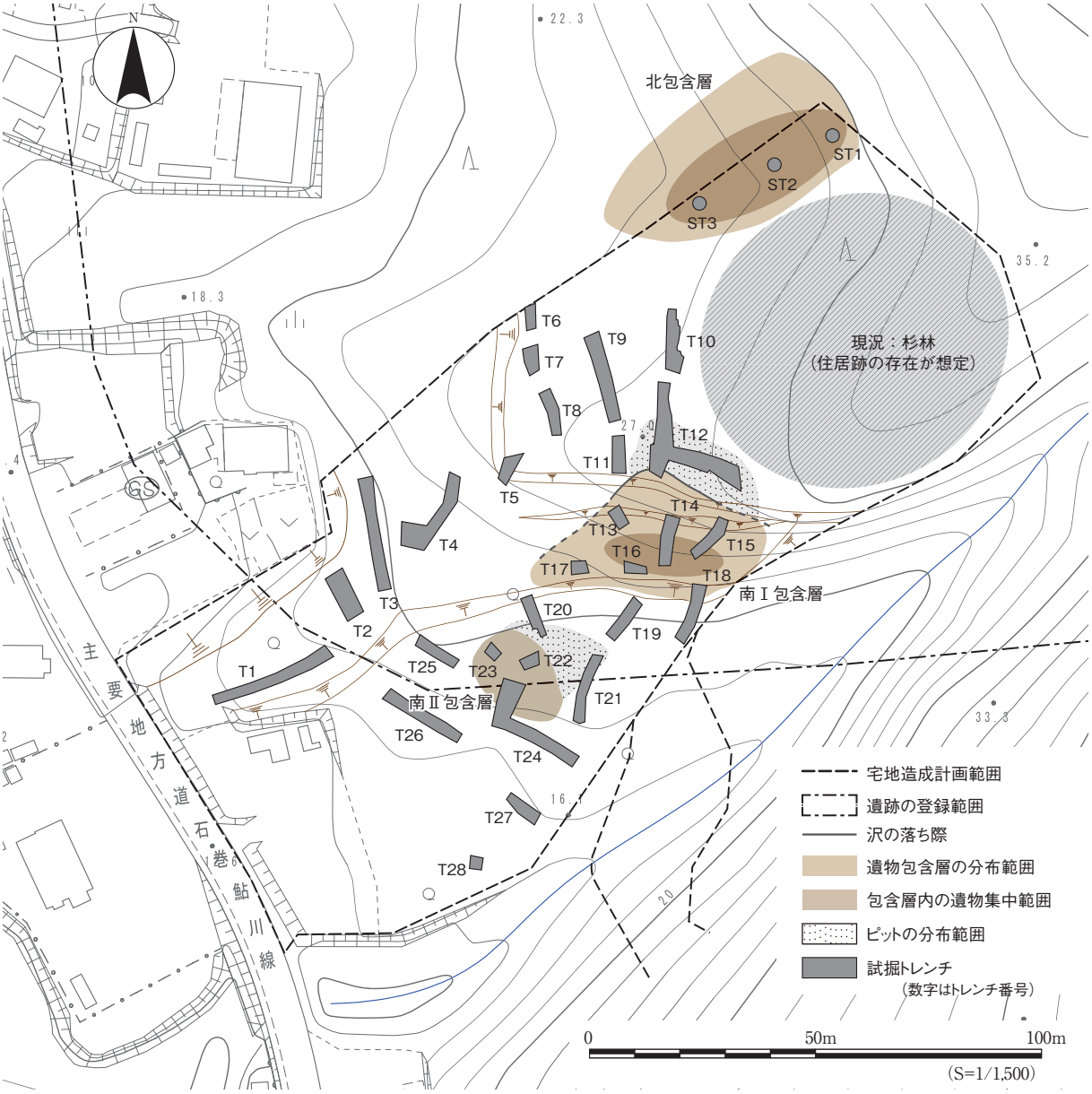


図2　調査区配置図

の弥生土器片１点が出土している。

【南Ⅰ包含層】（図２・3）

東西約 50 m、南北約 27 mの範囲（T13 ～ 18）に広がる縄文時代前～中期の遺物包含層で、T14 ～ 16 周辺に遺物の集中が認められる。本層は黒色シルトの間層を挟んで上下に大別され、上層は厚さ 70㎝前後の黒褐色シルト、下層は厚さ 30㎝前後の褐～

写真２　試掘調査（ST３周辺、南東から）

写真３　尾根周辺のトレンチ（T9、北から）

写真４　南Ⅰ包含層（T15、南西から）

写真５　南Ⅱ包含層（T24 西半、北東から）

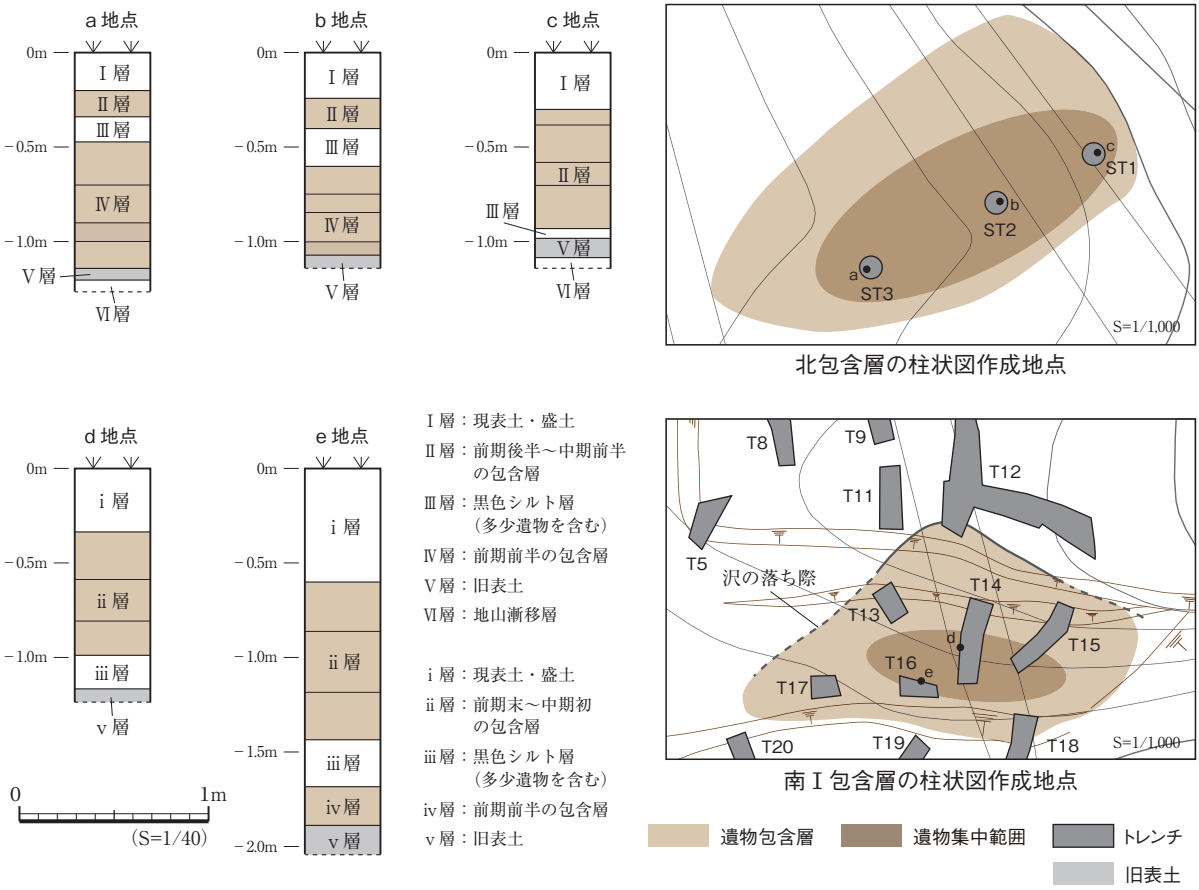


図３　遺物包含層断面柱状図

写真6　ST2 断面（b地点、西から）

写真７　T14 西壁断面（ｄ地点、東から）

写真８　T16 断面（ｅ地点、南から）

暗褐色シルトで、更に細分される。出土遺物は、上層から大木５～７式の縄文土器片、石器、石製品など、下層から大木１・２式の縄文土器片、石器などが出土している。

【南Ⅱ包含層】（図２）

東西約 15 m、南北約 22 mの範囲（T22 ～T24）に広がる遺物包含層であるが、土器の含有量は比較的少なく、小破片が中心であることから再堆積層と考えられる。縄文時代前期後半の大木４・５式の土器片を含む黒褐色シルト層で、厚さは 10cm前後である。

【北包含層】（図２・３）

東西 46 m以上、南北 18 m以上の範囲（ST１～ ST３）に広がる縄文時代前～中期の遺物包含層で、全体に遺物含有量が多く、旧表土直上には一括土器も認められる。本層は黒色シルトの間層を挟んで上下に大別され、上層は厚さ 20 ～ 60cmの暗褐～黒褐色シルト、下層は厚さ 40 ～ 70cmの暗赤褐～黒

褐色シルトで、更に細分される。出土遺物は、上層から大木４～８式の縄文土器片、石器など、下層からは大木１・２式の縄文土器片、石器などが出土している。

(4) まとめ

今回の試掘調査では遺物包含層３箇所やピット群２箇所などを確認しており、この分布範囲を対象とした本発掘調査を実施する必要がある。但し、南Ⅱ包含層は再堆積層とみられ、その北東側に位置するピット群も埋土の特徴が新しいとみられることから、この範囲については簡易な調査での対応が可能と考えられる。また、尾根筋周辺のトレンチで遺構が検出されなかったことから、移転候補地の西半近くが本発掘調査の対象から外れるものの、未調査の杉林内は住居跡などの遺構の存在が想定される最も良好な頂部の平坦面となっており、早期に確認調査を行う必要がある。

１～６：ST１（北包含層）
７～９：ST２（北包含層）
10～12：ST３（北包含層）
13：T13（南Ⅰ包含層）
14～16：T14（南Ⅰ包含層）

写真９　出土遺物（縄文土器）

9）野々浜（ののはま）遺跡 / 野々浜（ののはま）B 遺跡

遺 跡 名：野々浜遺跡・野々浜Ｂ遺跡
（県遺跡地名表登載番号 73045・73055）
（遺跡記号 WI・WJ）

所 在 地：牡鹿郡女川町野々浜字野々浜

調査原因：防災集団移転促進事業

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：山中信宏（宮城県教育委員会）
三好秀樹（宮城県多賀城跡調査研究所）
遠藤　武（愛媛県派遣）

調査期間：平成 24 年 8 月 21 日～ 8 月 29 日

対象面積：約 1,500㎡

調査面積：300㎡

調査協力：女川町教育委員会

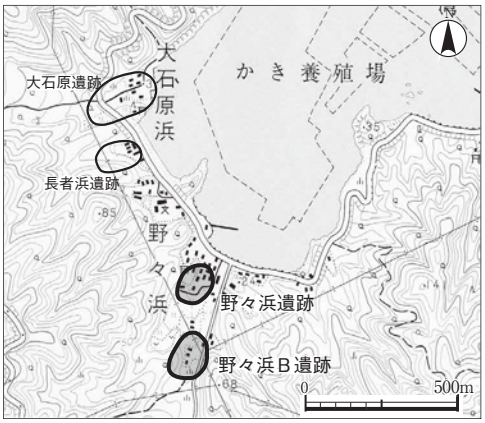


図1　遺跡の位置

(1) 調査に至る経緯

野々浜遺跡、野々浜Ｂ遺跡は五部浦湾最奥部の海浜と接する丘陵斜面・麓に立地する縄文時代前～晩期、弥生時代の散布地である（図１）。野々浜遺跡は丘陵末端から東側へ張り出した小丘陵の鞍部に、野々浜Ｂ遺跡は野々浜遺跡から沢を挟んで 250m ほど南東の丘陵斜面から麓に位置している。野々浜遺跡の現状は宅地･山林で、野々浜Ｂ遺跡は主に畑地・水田として利用されていた。東日本大震災における防災集団移転及び取り付け道路建設の候補地に両遺跡の範囲が含まれることから試掘調査を実施したものである。

(2) 調査の概要

野々浜遺跡では１本（Ｔ１）、

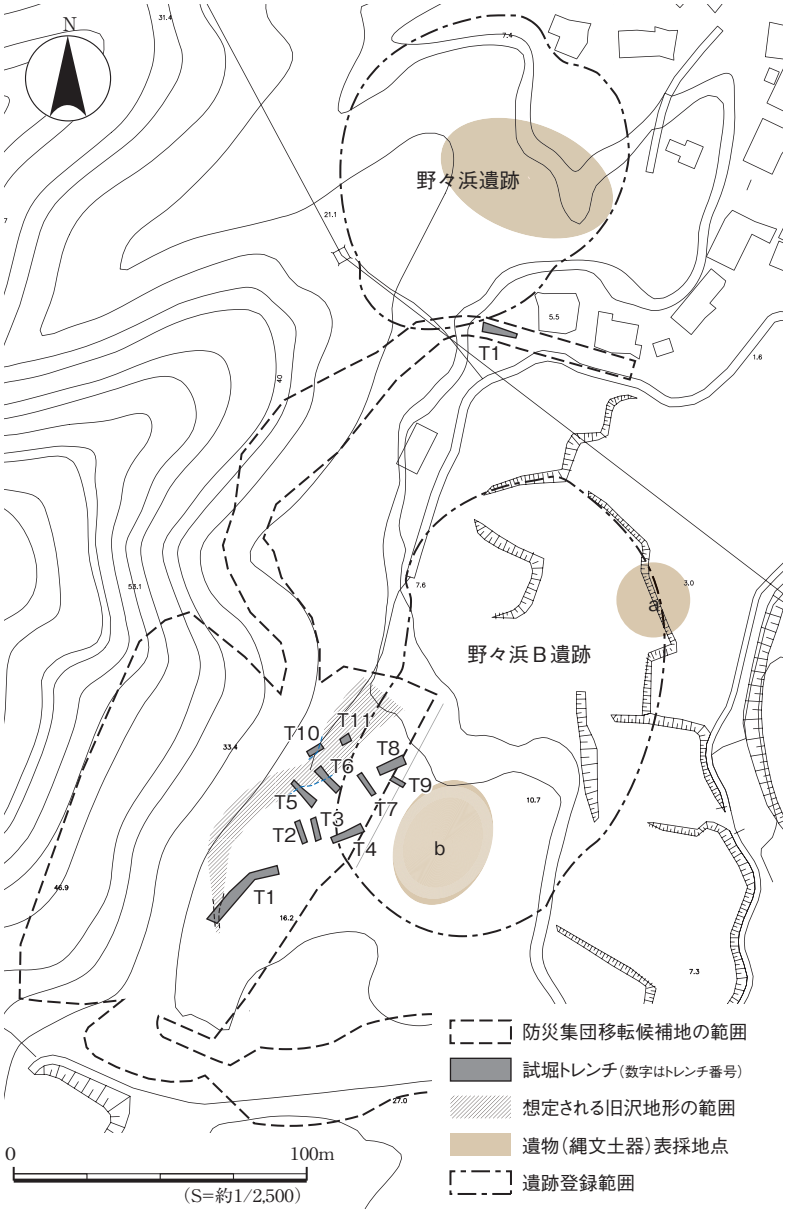


図2　試掘トレンチ配置図

野々浜Ｂ遺跡では11本（Ｔ１～Ｔ11）のトレンチを入れるかたちで試掘調査を行った（図２）。

その結果、野々浜遺跡のＴ１では深さ110～140cmで地山面に達し、最上位には厚さ50～70cmの盛土が認められた。この場所は南から入り込む沢を埋め立てて宅地造成していることが判明し、沢に堆積した旧表土層から縄文土器片が数点出土した。土器片に残るのは地文のみで、時期を特定することは難しいが、胎土に植物繊維を含むものがみられた。

野々浜Ｂ遺跡では、Ｔ１・５・６・10・11において現在の沢筋に沿って南北に延びる旧沢地形を確認している。Ｔ１では沢の堆積土中に灰白色火山灰層が認められ、沢内部にあたるＴ11では１ｍほど掘り下げた時点で激しい湧水があった。また、北斜面にあたるＴ４・７・８には旧表土も残存していたが、すべてのトレンチで遺構は検出されず、遺物も出土していない。

(3) まとめ

今回の集団移転候補地及び取り付け道路計画地はいずれも遺跡の縁辺部にあたり、遺構は未検出で、遺物も数点の縄文土器片が出土したのみである。よって、現計画では遺跡に影響はないものと判断される。なお、移転候補地（野々浜Ｂ遺跡）東側の北斜面から裾部にかけては縄文土器片の散布が認められ、遺構の存在が予想される。今回の調査時にａ地点で表採した土器片には晩期の大洞Ｂ－Ｃ式（写真４・右）や大洞Ｃ１式（写真４・左）のものなども含まれていた。

写真１　野々浜Ｂ遺跡遠景（北東から）

写真２　野々浜遺跡　Ｔ１トレンチ（北西から）

写真３　野々浜Ｂ遺跡　Ｔ２～４トレンチ（左から順、南から）

写真４　野々浜Ｂ遺跡　ａ地点表採土器

10）内山（うちやま）遺跡

遺 跡 名：内山遺跡（県遺跡地名表登載番号 73019）

所 在 地：牡鹿郡女川町鷲神浜荒立ほか

調査原因：被災市街地復興土地区画整理事業
（荒立東地区）

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：生田和宏・古田和誠（宮城県教育委員会）
伴瀬宗一（埼玉県派遣）
木村匡志・阿部匡利（女川町教育委員会）

調査期間：平成 25 年 3 月 7 日、3 月 14 日

対象面積：約 10,000㎡

調査面積：140㎡

調査協力：女川町教育委員会

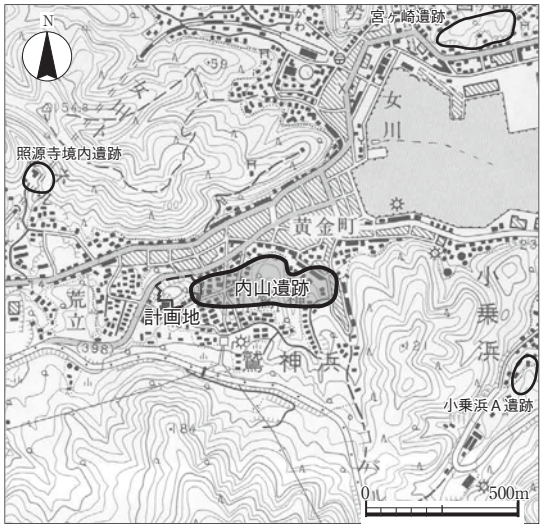


図1　遺跡の位置

(1) 調査に至る経緯

内山遺跡は牡鹿半島の付け根、女川町中心部に位置する縄文時代前期～晩期・古代の散布地で、女川湾から西に約 300 ｍの南から北に延びる丘陵に立地している（図１）。被災市街地復興土地区画整理事業にかかる荒立東地区の計画地に遺跡の一部が含まれることから、試掘調査を実施したものである。

(2) 調査の概要

計画地は遺跡本体から沢を隔てた西側の小丘陵（標高約 20 ～ 48 ｍ）に位置しており、計画地の東端部が遺跡範囲に含まれる。計画地の現況は山林である。丘陵頂部の平坦面及び幅約 25 ｍの階段状となっている南斜面に 5 本、丘陵東斜面裾部に 1 本のトレンチを設定し、試掘調査を行った（図２）。

その結果、検出された遺構はなく、遺物も出土しなかった。なお、階段状の南斜面については、近代以降の植林にともなう造成で地形改変されたと推測される。

(3) まとめ

今回の試掘調査では、遺構・遺物は検出されず、内山遺跡の範囲は沢を挟んだ西側の小丘陵に位置する計画地まで拡がらないことが分かった。

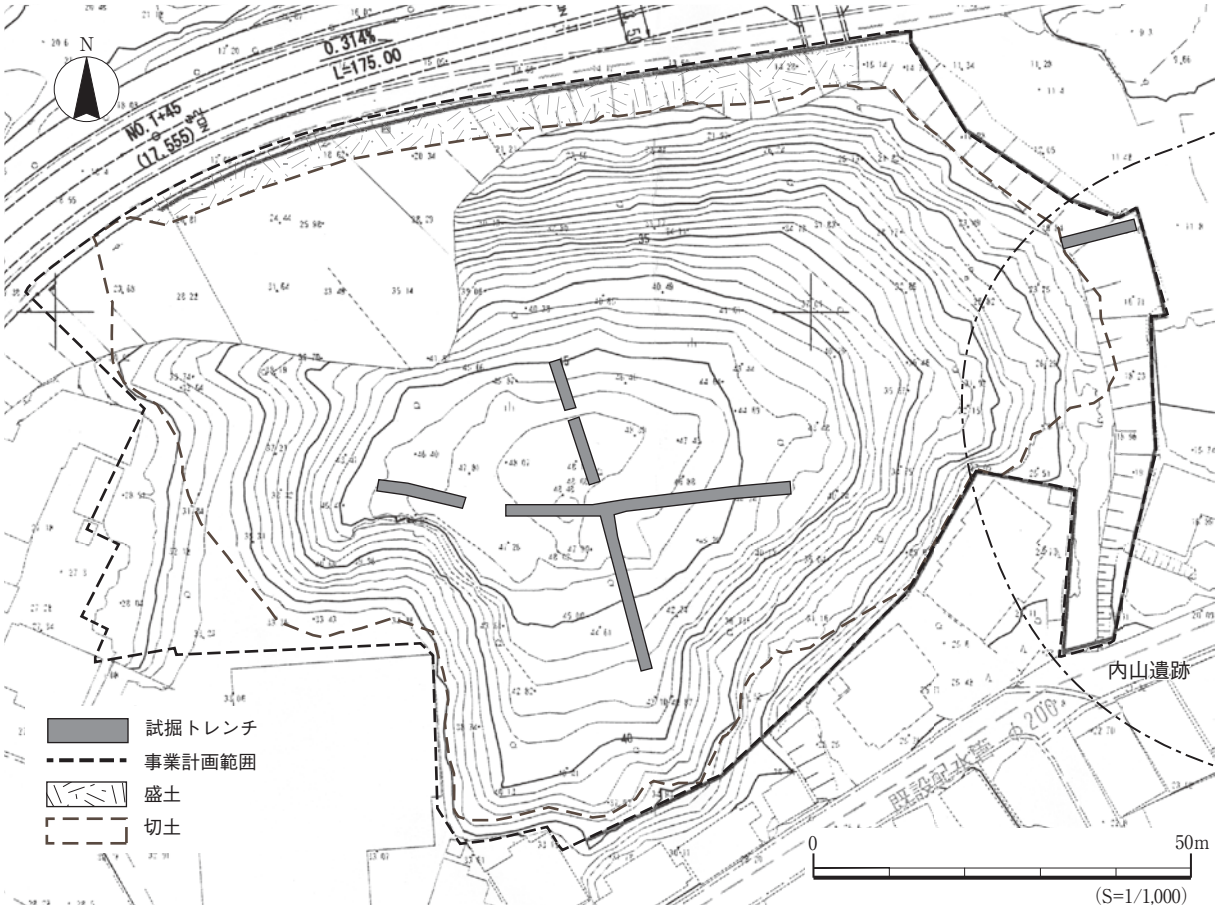


図２　試掘トレンチ配置図

写真１　計画地遠景（南東から）

写真２　東西トレンチ東端（北東から）

写真３　東西トレンチ中央（西から）

写真４　南斜面トレンチ（北から）

11）朴島宅地遺跡

遺 跡 名：朴島宅地遺跡（県遺跡地名表登載番号 11083　遺跡記号 WR）

所 在 地：塩竈市浦戸野々島字朴島宅地地内

調査原因：小規模住宅地区改良事業

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：豊村幸宏・山中信宏（宮城県教育委員会）

　　小淵忠司（岐阜県派遣）

調査期間：平成 24 年 9 月 24 日～ 10 月 11 日

対象面積：約 1,500㎡

調査面積：146㎡

調査協力：塩竈市教育委員会

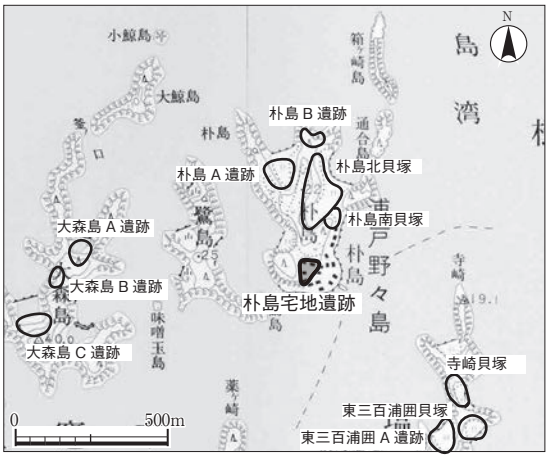


図1　遺跡の位置

(1) 調査に至る経緯

朴島宅地遺跡は、松島湾内の離島、朴島の南端部に位置する。震災後の復興事業計画に基づく現地確認により古代の製塩土器の散布が確認され、新たに登録された遺跡である（図１）。事業の実施が遺跡に及ぼす影響を把握するため試掘調査を行うこととなり、地権者と関係部局から調査トレンチ設定箇所について了解を得たのち、調査を実施した。

(2) 調査の概要

調査対象地は、朴島南端部の丘陵際に広がる平坦地（標高０～２ｍ）である。現況は宅地、畑地、道路である。住宅が残る区域では人力によりトレンチを掘削し、解体・撤去がすでに行われた区域では重機を使用した。ほとんどの区域で湧水が激しく、排水を行いつつ作業を進めた。調査の結果、当

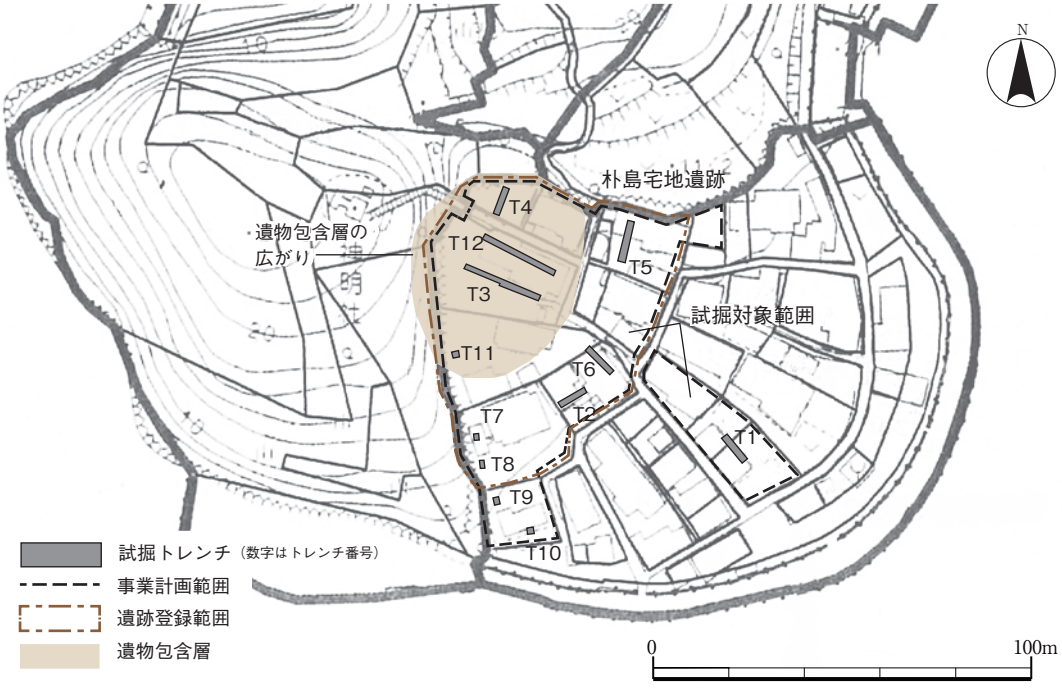


図2　試掘トレンチ配置図

初から古代の製塩土器の散布が認められた最奥部（神明社の隣接区域）において、遺物包含層を確認した（図２）。調査対象地は特別名勝松島の指定地域内であることから、調査完了後、速やかに復旧作業を実施した。

(3) 調査の成果

12か所のトレンチのうち、まとまった量の遺物が出土したのは、Ｔ３・Ｔ４・T11・T12トレンチに限られる。比較的標高の高い区域に位置するそれらのトレンチでは、盛土等の直下において平安時代の遺物包含層を確認した。遺物包含層の範囲は南北50m、東西40m程と推定される。遺物包含層の中には、Ｔ３トレンチ８層、T12トレンチ３層など、貝などの自然遺物を多く含む層がみられる。Ｔ３トレンチでは、10世紀前葉に降下したとされる灰白色火山灰層（12層）を挟んで遺物包含層が堆積している（図３・４）。

自然遺物を除く出土遺物破片数は200点余りを数えるが、帰属時期が古代に偏る傾向が極めて顕著である（図５・写真９）。32点出土した須恵器の確認器種は、坏・甕、それに壺・鉢類である。坏は底部外面に回転糸切り痕を残す個体が多い。土師器は22点を数え、確認器種はロクロ調整の坏、甕である。坏の内面は黒色処理され、底部には放射状のヘラミガキが認められる。底部の切り離しは回転糸切りによる。製塩土器は131点を数える。薄手の個体（8・9）もみられるものの、粘土紐積み上げ痕の認められる厚手の個体（11・12）が多い。須恵系土器（赤焼土器）の可能性のある土器片も10点余り出土している。また、Ｔ３トレンチでは、支脚とみられる円筒状の土製品が１点出土している。以上の帰属時期については、９世紀後半～10世紀前半代とみることができよう。その他の時期に属する遺物は、Ｔ３トレンチから出土した縄文時代晩期の鉢の口縁部破片１点など、ごく少量にとどまる。

貝を多く含む層のうち、Ｔ３トレンチ８層・13層・16層、Ｔ４トレンチ７層・15層、T12トレンチ３層について水洗選別を実施し、自然遺物を抽出した。確認できた貝は、二枚貝ではマガキ・アサリ・オキシジミガイ・イガイ・シオフキガイ、巻貝ではスガイ・アカニシ・ツメタガイ・コシダカガンガラ・ウミニナ・イボウミニナ・タマキビガイ・ムシロガイ・ヘビガイ類・フジツボ類・カサガイ類である。主体を占めるのはマガキで、アサリがそれに次ぐ。魚骨は、アイナメの歯骨、ヒラメの前上顎骨、マガレイの前上顎骨、フグ科の前上顎骨・歯骨、ハゼ科の前上顎骨・歯骨、サメ・エイ類の椎骨などを確認した。獣骨は、ウシ幼獣の中手骨を確認した（写真９）。

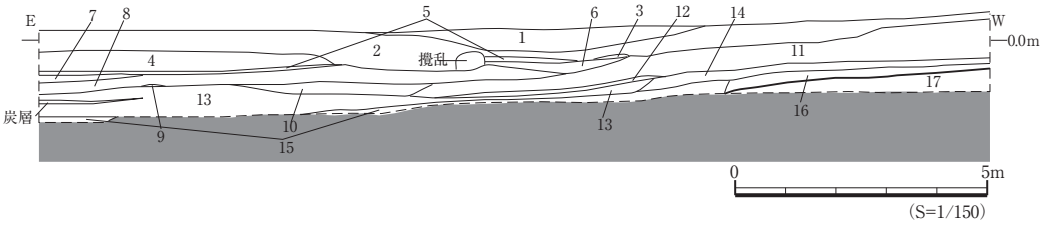
なお、上記４か所のトレンチ以外では、盛土層下で自然堆積層と自然貝層を検出したにとどまり、T10トレンチから近世陶磁器片２点が出土した以外に遺物は見出されなかった。

(4) まとめ

今回の調査により、平安時代前期において調査対象地一帯は入り江状の地形を呈し、その最奥部の丘陵際に遺物包含層が形成されたことが明らかとなった。遺物包含層からは多数の製塩土器のほか、製塩炉に伴うとみられる被熱礫も出土したことから、製塩遺構の存在する可能性が高いものと判断される。さらに、調査期間中に実施した島内分布調査により、調査対象地の北側に隣接する丘陵部の広範囲にわたり古代の土器が散布することを確認し、丘陵部に集落の存在を想定するに至った。

最後に、試掘調査結果をもとに行った協議の結果、掘削深度の深い鉄筋コンクリート住宅は遺物包含層を避けて建設する計画となり、復興事業の実施による遺跡損壊は回避されたことを付言しておく。

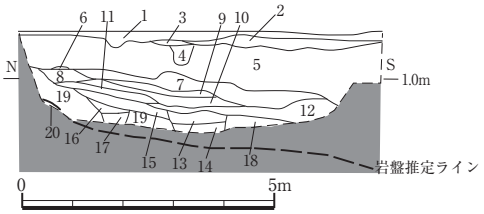
Ｔ３トレンチ南壁断面図



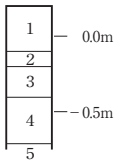
Ｔ３トレンチ

層名	土　色		土　性	備　　考
1	－	－	貝層	しまり弱い。現代の貝層とみられる。
2	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	細かな貝片を多く含む。しまりやや弱い。盛土か。
3	－	－	炭層	
4	10YR4/ 1	褐灰色	シルト	貝を多く含む。被熱礫（炉石？）・炭を含む。
5	5Y5/3	灰オリーブ色	シルト	混入物はほとんど認められない。しまりやや強い。
6	10YR3/1	黒褐色	シルト	炭を少量含む。しまり弱い。
7	10YR3/1	黒褐色	粘質シルト	炭を多く含む。貝を含む。しまりやや弱い。
8	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	貝を多く含む。製塩土器ほか古代の土器を含む。しまり弱い。
9	7.5YR4/3	褐色	シルト	炭を含む。しまり弱い。熱を受けている。
10	10YR4/1	褐灰色	シルト	被熱礫（炉石？）を含む。しまりやや弱い。
11	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質シルト	製塩土器ほか古代の土器を含む。しまりやや強い。
12	10YR8/1	灰白色	シルト	混入物は認められない。しまりやや強い。火山灰堆積とみられる。
13	－	－	貝層	製塩土器ほか古代の土器を含む。炭の層を含む。しまり弱い。
14	10YR4/2	灰黄褐色	中砂	炭を含む。しまりやや強い。
15	10YR4/1	褐灰色	細砂	混入物はほとんど認められないが貝を少量含む。しまり強い。
16	－	－	貝層	炭の層を含む。しまり弱い。
17	10YR4/1	褐灰色	細砂	径10cmまでの円礫を多く含む。しまり強い。地山。

Ｔ4トレンチ東壁断面図



Ｔ11トレンチ北壁柱状図



Ｔ11トレンチ

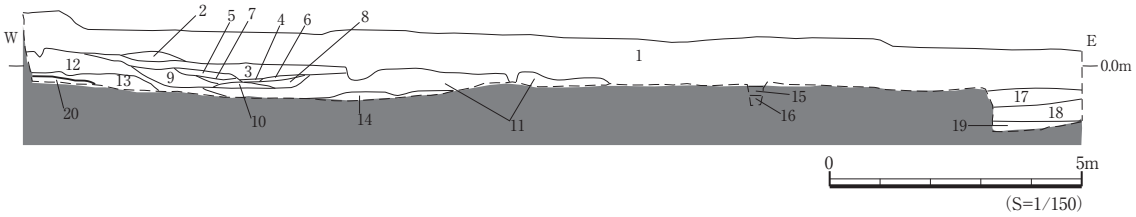
層名	土　色	土　性	備　　考
1	－	－	盛土。
2	褐色	粘質シルト	混貝土層。古代の土器を含む。
3	褐灰色	粘土	地山ブロックを多く含む。古代の土器を含む。
4	オリーブ灰色	粘土	混貝土層。古代の土器を含む。
5	暗灰黄色	砂	地山。

Ｔ４トレンチ

層名	土　色		土　性	備　　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	細かな貝を含む。しまり弱い。
2	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	細かな貝を多く含む。炭を少量含む。製塩土器とみられる細かな土器片をわずかに含む。しまり弱い。
3	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	しまりやや強い。
4	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	径 1cmまでの礫を多く含むほか径 10cmの被熱礫１つを含む。貝を含む。しまり弱い。土坑埋土か。
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	径 10cmまでの礫を多く含む。貝を含む。細かな土器片を含む。炭を含む。しまりやや強い。盛土か。
6	－	－	炭層	径 1cmまでの礫を含む。しまり弱い。
7	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	貝を多く含む。径 5cmまでの礫を含む。製塩土器・須恵器を含む。しまりやや弱い。
8	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	径 5cmまでの礫を多く含む。製塩土器を含む。炭を含む。しまりやや弱い。5 層とほぼ同質。
9	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	径 1cmまでの礫を少量含む。炭を多く含む。貝を含むが 7 層に比べ少量である。製塩土器を含む。しまりやや弱い。
10	10YR4/3	にぶい黄褐色	細砂	径 5cmまでの礫を少量含む。炭を含むが 9 層に比べ少量である。製塩土器を含む。しまりやや弱い。
11	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	径 5cmまでの礫を少量含む。炭を含む。貝を少量含む。しまりやや弱い。
12	10YR4/3	にぶい黄褐色	細砂	炭を含む。貝を少量含む。しまりやや弱い。
13	10YR4/3	にぶい黄褐色	細砂	焼土（7.5YR4/3 褐色被熱細砂）を含む。貝を多く含む。製塩土器を含む。炭を含む。しまり弱い。土坑埋土か。
14	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	径 1cmまでの礫を含む。炭を含む。しまり弱い。土坑埋土か。
15	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	貝を多く含む。径 5cmまでの礫を含む。製塩土器を含む。炭を含む。しまり弱い。
16	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質シルト	均質で混入物はほとんど認められない。しまりやや弱い。
17	10YR3/1	黒褐色	粘質シルト	しまり弱い。土坑埋土か。
18	2.5Y4/3	オリーブ褐色	細砂	貝を含む。遺物は認められない。しまりやや強い。
19	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	径 3cmまでの礫を少量含む。炭を少量含む。遺物は認められない。しまりやや強い。
20	5Y6/3	オリーブ黄色	岩盤	地山。

図3　トレンチ断面図（１）

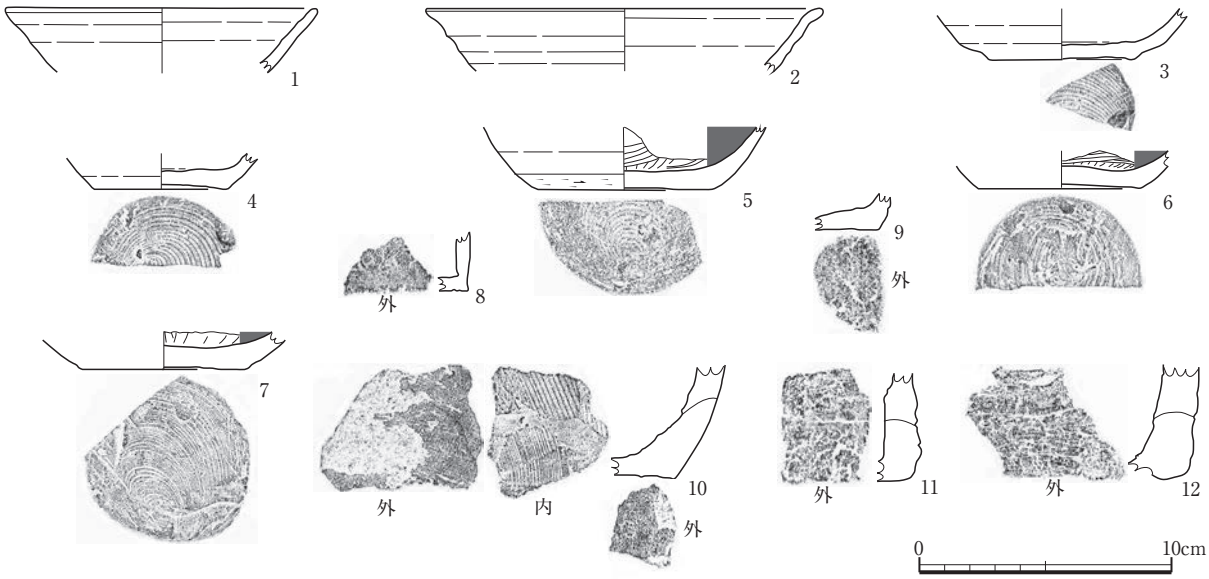
T12 トレンチ北壁断面図



T 12 トレンチ

層名	土　色		土　性	備　　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	貝・コンクリート・礫・炭等を多く含む。しまり弱い。撹乱層。
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	貝・細かな土器片・炭を含む。しまりやや弱い。
3	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	貝を非常に多く含む。土器（製塩土器）・炭を含む。しまりやや弱い。
4	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	炭を非常に多く含む。貝を含む。しまりやや強い。
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質シルト	炭を多く含む。しまりやや強い。
6	2.5Y5/3	黄褐色	細砂	炭を少量含む。しまりやや弱い。
7	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	貝を多く含む。炭を含む。しまりやや弱い。
8	2.5Y4/2	暗灰黄色	細砂	貝を少量含む。しまりやや強い。
9	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	貝を多く含む。径 5cmまでの礫を含む。炭・土器（製塩土器）を含む。しまりやや強い。
10	5Y5/2	灰オリーブ色	細砂	径 3cmまでの円礫を含む。炭を含む。貝を少量含む。しまり強い。
11	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	径 3cmまでの礫を含む。貝・炭を含む。しまりやや強い。
12	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	混入物は少なく均質であるが土器（製塩土器）・炭を含む。しまり強い。
13	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	貝を非常に多く含む。細かな土器片（製塩土器）を含む。しまり弱い。
14	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	径 3cmまでの礫を含む。炭・細かな土器片（製塩土器？）を含む。しまり強い。
15	10YR4/1	褐灰色	シルト	径 3cmまでの礫を含む。炭を含む。しまりやや強い。
16	2.5Y4/1	黄灰色	粘質シルト	炭を含む。貝を少量含む。しまり強い。
17	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	貝・土器（製塩土器）・炭を含む。しまり弱い。
18	－	－	貝層	10YR5/1 褐灰色シルトを含む。土器（製塩土器）・炭を含む。しまり弱い。
19	10YR4/1	褐灰色	細砂	貝を含む。しまり強い。
20	2.5Y4/2	暗灰黄色	細砂	混入物のごく少ない均質な砂層。しまり強い。地山。

図４　トレンチ断面図（2）



No.	種別　器種	出土地点	口径	底径	器高	特　　徴	登録番号
1	須恵器　坏	T 11 トレンチ 4 層	(12.4)	－	－	体部内外面ロクロナデ	16
2	須恵器　坏	T 4 トレンチ	(15.8)	－	－	体部内外面ロクロナデ	7
3	須恵器　坏	T 4 トレンチ	－	(5.8)	－	底部内面ロクロナデ　底部外面に回転糸切り痕	12
4	須恵器　坏	T 3 トレンチ 13 層	－	(5.4)	－	底部内面ロクロナデ　底部外面に回転糸切り痕	3
5	土師器　坏	T 12 トレンチ	－	(7.0)	－	内面ヘラミガキのち黒色処理　体部外面下端回転ヘラケズリ　底部外面回転糸切りのちナデ	19
6	土師器　坏	T 4 トレンチ	－	6.5	－	内面ヘラミガキのち黒色処理　底部外面回転糸切りのちナデ	9
7	土師器　坏	T 4 トレンチ	－	6.6	－	内面ヘラミガキのち黒色処理　底部外面に回転糸切り痕	6
8	製 塩 土 器	T 3 トレンチ	－	－	－	内外面摩滅	1
9	製 塩 土 器	T 3 トレンチ	－	－	－	内外面摩滅	2
10	土師器　甕	T 4 トレンチ	－	－	－	内面にハケメ状の調整痕　体部外面粗いケズリ？	10
11	製 塩 土 器	T 11 トレンチ 4 層	－	－	－	内外面粗いナデ	18
12	製 塩 土 器	T 11 トレンチ 3 層	－	－	－	内外面粗いナデ	15

図５　出土遺物

写真１ 調査区遠景（南から）

写真２　Ｔ３トレンチ掘削状況（北西から）

写真３ T3 トレンチ全景（東から）

写真４ T3 トレンチ東端断面（北から）

写真５　T4 トレンチ東壁断面（西から）

写真６　T11 トレンチ全景（南から）

写真７　T12 トレンチ東端断面（南から）

写真８　T3・T4・T11・T12 トレンチ復旧後全景（北西から）

S≒1/2

S≒1/2

S≒4/5

S≒2/3

写真９　出土遺物

12）桂島貝塚（かつらしまかいづか）

遺 跡 名：桂島貝塚（宮城県遺跡地名表登載番号 11005　遺跡記号 WG）

所 在 地：塩竈市浦戸桂島字台地内

調査原因：災害公営住宅事業

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：豊村幸宏・大坂　拓（宮城県教育委員会）

　　小淵忠司（岐阜県派遣）

調査期間：平成 24 年 6 月 25 日～ 7 月 11 日

対象面積：約 1,500㎡

調査面積：190㎡

調査協力：塩竈市教育委員会

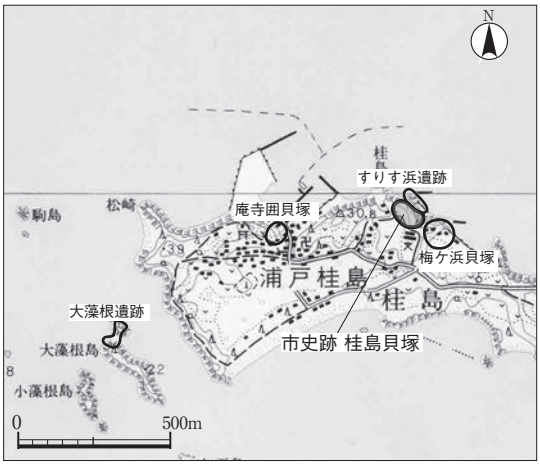


図1　遺跡の位置

(1) 調査に至る経緯

桂島貝塚は、松島湾内にある桂島のほぼ中央に位置する縄文時代前期・中期の貝塚である（図１）。貝層は北･東･南側斜面の３箇所で認められている。それらのうち、北斜面の貝層は縄文時代中期（大木９式）の土器を多量に包含することが知られており、南斜面の貝層は、浦戸第二小学校の建設に伴い昭和 38 年に塩竈市教育委員会によって調査された。報告書によれば、キサゴ・アサリを主とした貝層が検出され、層中から大木８ｂ～９式期の縄文土器が多量に出土した。また、大木１式期の遺物包含層も確認されている（塩竈市教委 2010）。災害公営住宅建設候補地は、遺跡の南側に隣接する丘陵緩斜面に位置し、新たな貝層が発見される可能性があることから、試掘調査を実施することとなった。

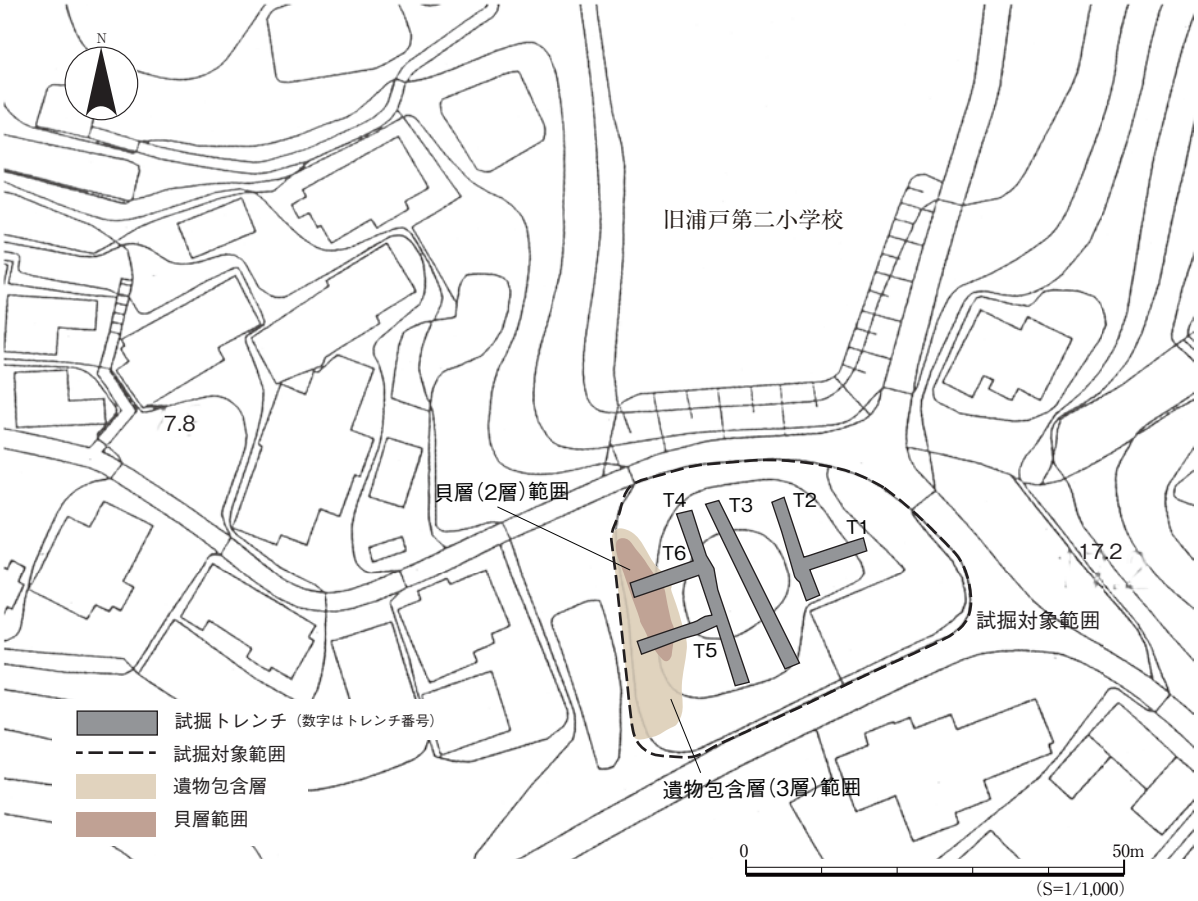
(2) 調査の概要

調査対象地の現況は畑地である。借地、樹木伐採、下草刈りとその除去を行った後に試掘調査を実施した。調査は､南北方向に３本､東西方向に３本のトレンチを設定して行った（図２）。調査の結果、対象地西端に広がる緩斜面において、新たな貝層・遺物包含層を確認した。なお、調査対象地が特別名勝松島の指定地域内であることから、トレンチは現状変更許可申請において届け出た位置に設けており、調査完了後、速やかに復旧作業を実施した。

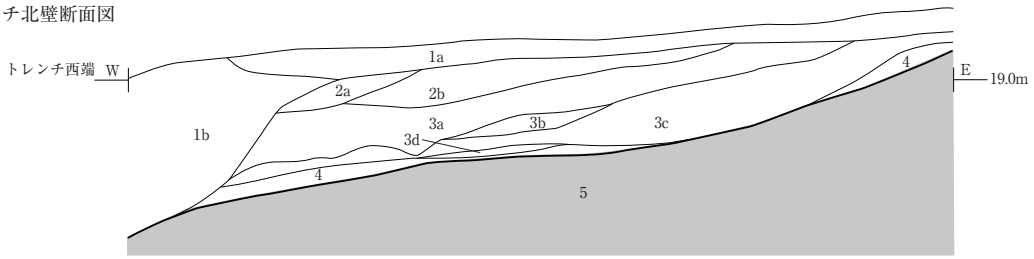
(3) 調査の成果

調査対象地の大部分は、畑地の造成に伴って削平を受けており、Ｔ１～Ｔ４トレンチでは厚さ 15 ～ 30cm の耕作土（1 層）直下で基盤岩層（5 層）が露呈する状況が認められた。一方、対象地西端の西向き緩斜面に設定したＴ５･Ｔ６トレンチでは、耕作土下で縄文時代中期末～後期前葉の貝層（2 層）と遺物包含層（3 層）を確認した（図２）。

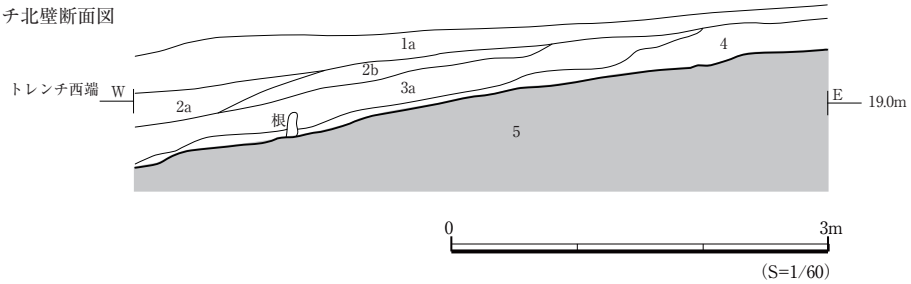
貝層（2 層）の推定範囲は、南北約 15 m、東西約 4 m、厚さは 10 ～ 25cm で、畑地の造成により東端部分は削平されている。この層に含まれる貝のうち特に多いのは、レイシガイ・スガイ・アサリ・



T５トレンチ北壁断面図



T６トレンチ北壁断面図



T５･６トレンチ

層名	土色		土性	備　　考
1a	10YR3/2	黒褐色	シルト	しまり弱い。表土（畑の耕作土）。
1b	10YR3/2	黒褐色	シルト	1a と同質の土を盛り直した層。畑の造成土。
2a	10YR3/2	黒褐色	シルト	2b の再堆積とみられる。しまり弱い。貝を含む混貝土層。
2b	10YR3/1	黒褐色	シルト	上部が削平される。主として縄文時代中期末～後期前葉の遺物を多く含む。しまり弱い。貝を多く含む混土貝層。
3a	10YR3/2	黒褐色	シルト	径１㎝までの地山粒を多量に含む。縄文時代の遺物を少量含む。しまり強い。遺物包含層。
3b	10YR3/1	黒褐色	粘質シルト	しまり強い。遺物包含層。
3c	10YR3/2	黒褐色	シルト	3a と同質。しまり強い。
3d	10YR3/1	黒褐色	粘質シルト	しまり強い。遺物包含層。
4	10YR3/3	暗褐色	粘質シルト	地山粒を多量に含む。しまり強い。地山漸移層。
5	－	－	－	基盤岩層

図２　試掘トレンチ配置図・断面図

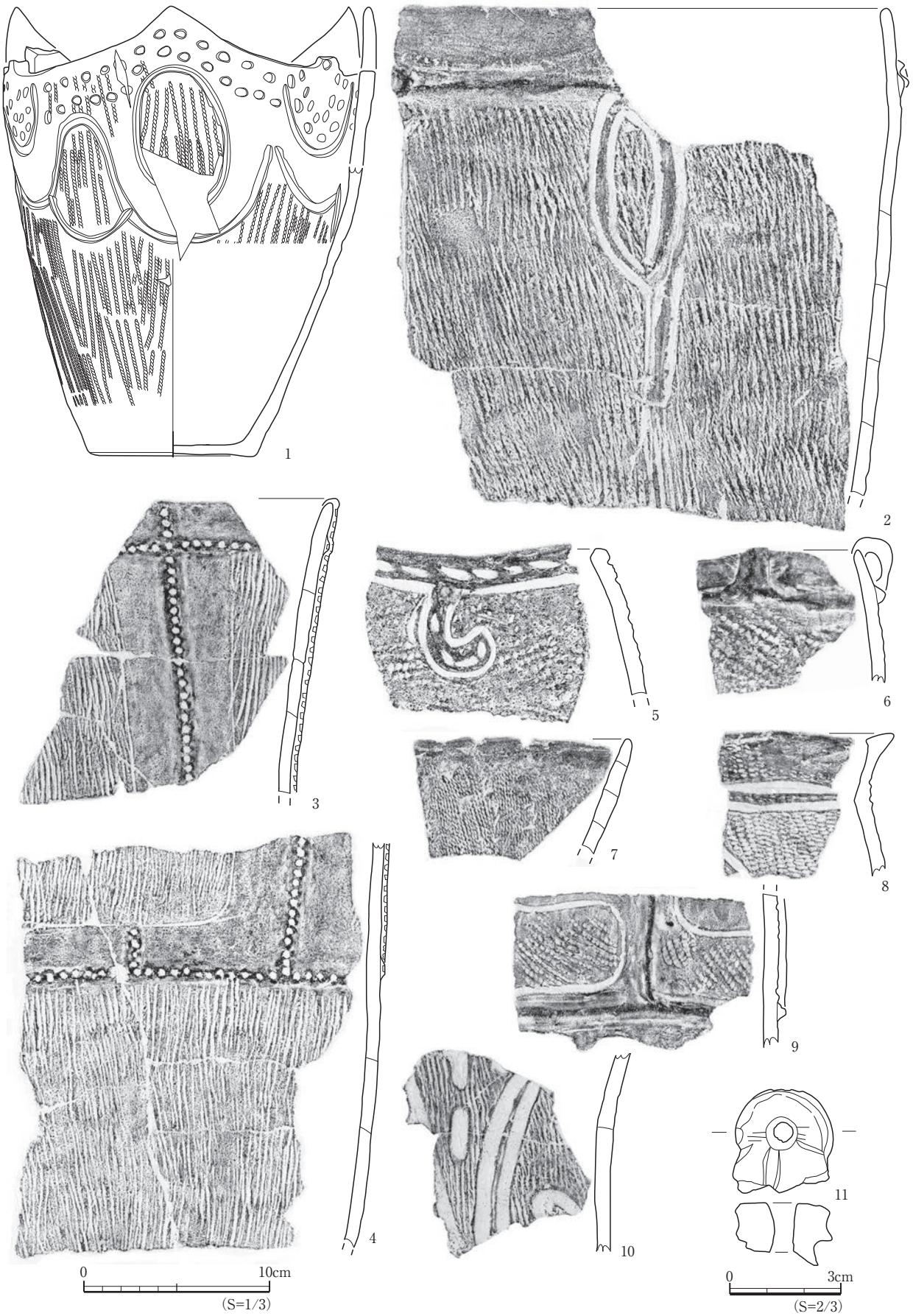


図３　出土遺物

図３の遺物観察表

№	種別　器種	出土地点	口径長さ	底径幅	器高厚さ	特徴	登録番号
1	縄文土器　深鉢	Ｔ６トレンチ２層	19.9	87	24.3	３単位の波状口縁　口縁先端間の中間位置に突起　撚糸文（R）ののち沈線による区画　区画内を磨り消す　沈線内ミガキ　口縁部に列状の刺突文　大木10式	10
2	縄文土器　深鉢	Ｔ５トレンチ２層	－	－	－	撚糸文ののち口縁部・体部境に隆帯貼り付け　隆帯上に円形の貼り付け　体部に沈線による懸垂文　南境式	3
3	縄文土器　深鉢	Ｔ５トレンチ２層	－	－	－	撚糸文ののち沈線による区画と磨り消し　そののち隆帯貼り付け　隆帯上に竹管による刺突文　４と同一個体か　大木10式	1
4	縄文土器　深鉢	Ｔ５トレンチ２層	－	－	－	撚糸文ののち沈線による区画と磨り消し　そののち隆帯貼り付け　隆帯上に竹管による刺突文　３と同一個体か　大木10式	2
5	縄文土器　鉢	Ｔ５トレンチ２層	－	－	－	縄文ののちＪ字状の沈線文　口縁部と沈線文内に連続刺突文　門前式	8
6	縄文土器　深鉢	Ｔ５トレンチ２層	－	－	－	縄文（LR）ののち口縁部・体部境に隆帯貼り付け　口縁部に橋状把手　内面に横方向のミガキ	7
7	縄文土器　深鉢	Ｔ６トレンチ２層	－	－	－	体部に撚糸文　口縁部は磨り消す　大木10式	9
8	縄文土器　深鉢	Ｔ５トレンチ２層	－	－	－	縄文ののち頸部に２条の沈線　口縁部の一部にミガキ　口縁部から頸部にかけての内面にケズリ　大木8b式か	11
9	縄文土器　深鉢	Ｔ５トレンチ２層	－	－	－	体部中央の破片とみられる　縄文（RL）ののち隆帯貼り付けによる区画　さらに沈線による区画ののち磨り消し　内面に縦方向の粗いミガキ　大木10式	5
10	縄文土器　深鉢	Ｔ５トレンチ２層	－	－	－	朝顔形に開く器形とみられる　撚糸文ののち体部に幅広の沈線文　門前式	6
11	骨角器　垂飾	Ｔ５トレンチ２層	2.7	2.5	1.7	シカ中手／中足骨遠位端を表裏両面から穿孔　表面の孔左右に３条の刃物痕	12

オニアサリ・ハマグリ・カリガネエガイで、それらのほか、イガイ・シオフキガイ・オキシジミガイ・マガキ・アカニシ・コシダカガンガラ・イシダタミガイ・ヒメエゾボラ・ヒレガイ・サルボウガイを確認した（写真14）。貝以外の自然遺物としては、スズキの主鰓蓋骨・前鰓蓋骨・角骨・歯骨、マダイの上後頭骨・前上顎骨・角骨・歯骨、クロダイの前上顎骨・歯骨、サバの第２椎骨、サメ・エイ類の椎骨、ウ科の尺骨・橈骨・大腿骨・足根中足骨、マイルカ亜科の下顎骨、イヌの下顎骨などを確認した。なお、シカ中手／中足骨遠位端を加工した垂飾（11）が出土している（写真15）。

貝層（２層）からはテン箱２箱分の縄文土器が出土した（図３・写真13・14）。大木10式後半期ないしは後続する門前式・南境式とみられる個体が多数を占めることから、概ね、縄文時代中期末から後期前葉にかけての時期に属する土器群と判断される。それを遡る時期に属する土器としては、Ｔ５トレンチ２層から出土した縄文時代前期の繊維入土器などがあるものの、ごく少量にとどまる。弥生時代以降の土器は全く出土していない。石器も少なく、Ｔ６トレンチ２層から珪質頁岩の剥片１点が出土したのみである。

貝層（２層）の下に広がる遺物包含層（３層）の推定範囲は、南北約30ｍ、東西約８ｍで、厚さは30～40cmである。含まれる遺物量がさほど多くはないうえ、良好な状態の個体が出土していないため、２層に比較して大きな時期差があるか否かは判然としない。

(4) まとめ

今回の調査により、災害公営住宅建設候補地とされた遺跡南隣接地の緩斜面において、新たに縄文時代中期末～後期前葉の貝層・遺物包含層が良好な状態で遺存すること確認できた。このため、遺跡範囲の拡大変更を行うこととなった。

なお、試掘調査結果をもとに行った協議の結果、盛土工法の採用により貝層・遺物包含層の損壊を回避できたことを付言しておく。

引用・参考文献

塩竈市教育委員会　2010『桂島貝塚』 塩竈市文化財調査報告第８集

写真１　調査前状況（南西から）

写真２　トレンチ設定状況（南西から）

写真３　掘削作業状況全景（北東から）

写真４　Ｔ５トレンチ遺物出土状況（西から）

写真５　Ｔ５トレンチ断面（南から）

写真６　Ｔ５トレンチ全景（東から）

写真７　Ｔ６トレンチ掘削作業状況（北西から）

写真８　Ｔ６トレンチ断面（南から）

写真９　T６トレンチ全景（東から）

写真 10　掘削後全景（北から）

写真 11　埋め戻し作業状況（北西から）

写真 12　埋め戻し後全景（北東から）

S≒1/2

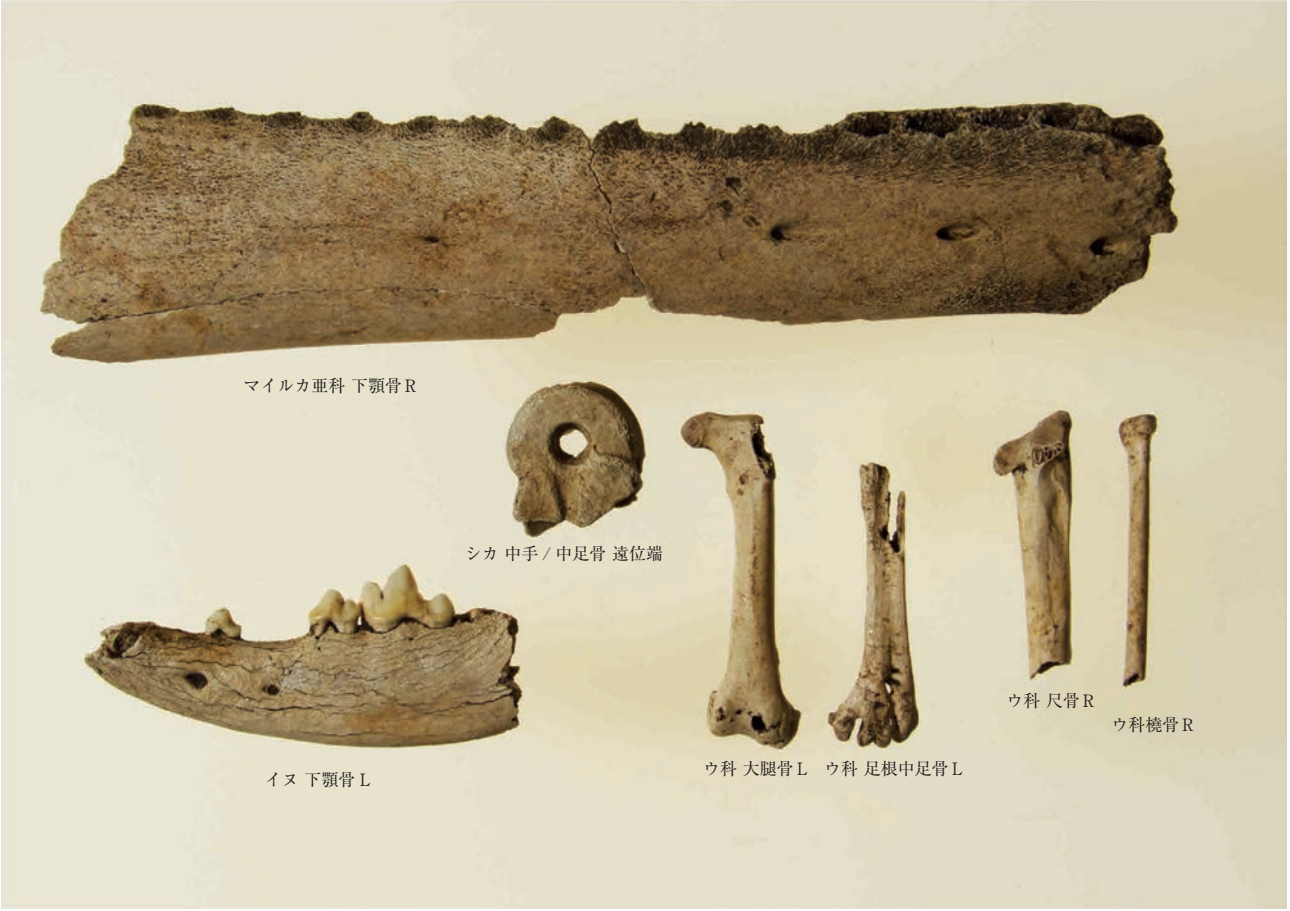
写真 13　出土遺物（１）

数字は図３の番号と対応　　S≒1/3

S≒1/2

写真 14　出土遺物（２）

S≒1/2



S≒3/4

写真 15　出土遺物（3）

報　告　書　抄　録

ふりがな	へいせいにじゅうよねんど　ひがしにほんだいしんさいふっこうじぎょうかんれんいせきちょうさほうこく
書名	平成24年度　東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告Ⅰ
副書名	
巻次	
シリーズ名	宮城県文化財調査報告書
シリーズ番号	第233集
編著者名	佐久間光平（編）・古川一明・高橋栄一・遠藤　武・大友邦彦・大橋雅也・小淵忠司・伴瀬宗一 古田和誠・三好秀樹
編集機関	宮城県教育委員会
所在地	〒980－8423　宮城県仙台市青葉区本町3－8－1　TEL：022－211－3685　FAX：022－211－3693
発行年月日	西暦2014年3月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	世界測地系 北緯	世界測地系 東経	調査期間	調査面積	調査原因
まつざきたてあと 松崎館跡	もとよしぐんみなみさんりくちょう 本吉郡南三陸町 とくらあざとくら 戸倉字戸倉	04606	60049	38度 38分 45秒	141度 27分 48秒	2012.04.25～ 2012.05.08	1,150㎡	防災集団移転促進事業
わかみやいせき 若宮遺跡	もとよしぐんみなみさんりくちょう 本吉郡南三陸町 とくらあざわかみや 戸倉字若宮	04606	60012	38度 38分 25秒	141度 29分 19秒	2012.05.21～ 2012.05.24	470㎡	防災集団移転促進事業
つのみやいせき 津の宮遺跡	もとよしぐんみなみさんりくちょう 本吉郡南三陸町 とくらあざつみや 戸倉字津の宮	04606	60011	38度 38分 27秒	141度 28分 56秒	2013.02.04～ 2013.02.07	87㎡	防災集団移転促進事業
あおしまたてあと 青島館跡 つきはまこふんぐん 月浜古墳群	いしのまきしきたかみちょう 石巻市北上町 じゅうさんはまあざつきはま 十三浜字月浜	04202	72020 72030	38度 34分 34秒	141度 26分 52秒	2012.12.03～ 2012.12.14	530㎡	防災集団移転促進事業
たちはまかいづか 立浜貝塚	いしのまきしおがつちょうたちはま 石巻市雄勝町立浜 あざてんじん 字天神	04202	68009	38度 30分 26秒	141度 31分 0秒	2013.01.15～ 2013.01.22	134㎡	防災集団移転促進事業
にらづかかいづか 韮塚貝塚	いしのまきしわたのはあざにいぬま 石巻市渡波字新沼 ほか	04202	65022	38度 25分 29秒	141度 21分 41秒	2013.02.25～ 2013.03.21	6,366㎡	被災市街地復興土地区画整理事業
なかざわいせき 中沢遺跡	いしのまきしきゅうぶんはまあざ 石巻市給分浜字 しみず 清水	04202	74012	38度 19分 53秒	141度 28分 37秒	2012.06.25～ 2012.07.04	1,050㎡	防災集団移転促進事業
はぐろしたいせき 羽黒下遺跡	いしのまきしきゅうぶんはまあざ 石巻市給分浜字 はぐろした 羽黒下	04202	74007	38度 19分 26秒	141度 28分 33秒	2012.07.09～ 2012.07.20	1,000㎡	防災集団移転促進事業
ののはまいせき 野々浜遺跡 ののはまいせき 野々浜B遺跡	おしかぐんおながわちょう 牡鹿郡女川町 ののはまあざののはま 野々浜字野々浜	04581	73045 73055	38度 23分 38秒	141度 28分 0秒	2012.08.21～ 2012.08.29	300㎡	防災集団移転促進事業
うちやまいせき 内山遺跡	おしかぐんおながわちょうわしの 牡鹿郡女川町鷲 かみはまあらだて 神浜荒立ほか	04581	73019	38度 26分 22秒	141度 26分 36秒	2012.03.07・ 03.14	140㎡	被災市街地復興土地区画整理事業
ほうじまたくちいせき 朴島宅地遺跡	しおがましうらとのじま 塩竈市浦戸野々島 あざほうじまたくち 字朴島宅地	04203	11083	38度 20分 58秒	141度 7分 25秒	2012.09.24～ 2012.10.11	146㎡	小規模住宅地区改良事業
かつらしまかいづか 桂島貝塚	しおがましうらとかつらしま 塩竈市浦戸桂島 あざだい 字台	04203	11005	38度 20分 9秒	141度 5分 42秒	2012.06.25～ 2012.07.11	190㎡	災害公営住宅事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
松崎館跡	城館	中世	なし	なし	
若宮遺跡	散布地	縄文中	なし	なし	
津の宮遺跡	散布地	縄文中	なし	なし	
青島館跡 月浜古墳群	城館 円墳	中世 古墳後、奈良	なし	なし	
立浜貝塚	貝塚	縄文前・中・晩	遺物包含層	縄文土器(前～晩期)	縄文前～晩期の遺物包含層
韮塚貝塚	貝塚	古墳、中世、近世	貝層（近世か）	土師器・須恵器 貝類	
中沢遺跡	散布地	縄文前	遺物包含層・ピット	縄文土器・石器	縄文前期の遺物包含層
羽黒下遺跡	散布地	縄文前・中	遺物包含層・ピット	縄文土器・石器	縄文前期の遺物包含層
野々浜遺跡 野々浜Ｂ遺跡	散布地 散布地	縄文前・中・晩 弥生中 縄文、弥生	なし なし	縄文土器 なし	
内山遺跡	散布地	縄文前～晩、古代	なし	なし	
朴島宅地遺跡	散布地	古代	遺物包含層 貝層（平安）	土師器・須恵器 製塩土器 動物遺存体	製塩遺構がある可能性あり
桂島貝塚	貝塚	縄文前・中、平安	遺物包含層	縄文土器・石器 動物遺存体	縄文中期末～後期前葉の貝層、遺物包含層

要約	松崎館跡 若宮遺跡 津の宮遺跡 青島館跡 月浜古墳群 内山遺跡	遺構・遺物とも確認されなかった。
	野々浜遺跡 野々浜Ｂ遺跡	野々浜遺跡では旧表土層から縄文土器片数点が出土したが、遺構は確認されなかった。野々浜Ｂ遺跡では遺構・遺物とも確認されなかった。
	立浜貝塚	斜面部において縄文時代前期～晩期にかけての遺物包含層を確認した。これらの遺物は丘陵上に存在が想定される集落跡に由来すると考えられる。
	韮塚貝塚	近世以降と推測される貝層を確認した。貝の種類には、アサリ、ハマグリ、アカニシ、アカガイなどがある。
	中沢遺跡	縄文時代前期の遺物包含層２箇所、ピット群を確認した。丘陵頂部の平坦面には住居跡などの遺構の存在が想定される。
	羽黒下遺跡	縄文時代前期の遺物包含層３箇所、ピット群を確認した。丘陵頂部の平坦面には住居跡などの遺構の存在が想定される。
	朴島宅地遺跡	丘陵際で平安時代前期の遺物包含層が確認された。遺物包含層からは多数の製塩土器の他、製塩炉に伴う被熱礫も出土したことから、製塩遺構が存在する可能性が高い。
	桂島貝塚	西緩斜面において、縄文時代中期末～後期前葉の貝層・遺物包含層が良好な状態で遺存することが確認された。

宮城県文化財調査報告書第 233 集

平成 24 年度
東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告Ⅰ

平成 26 年 3 月 15 日 印刷
平成 26 年 3 月 20 日 発行

発　行　宮 城 県 教 育 委 員 会
仙台市青葉区本町三丁目 8 番 1 号